

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：経営法学部

<b>(Plan)</b> 事業 目標	<p>1 アドミッションポリシーに即した学生の募集を図る。</p> <p>2 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに基づく単位認定及び卒業認定を適正に実施する。</p> <p>3 履修モデルに沿った履修を促進し、一部の履修モデルのプログラム化に向けた整備を行う。</p> <p>4 特別養成プログラムの着実な実施による学生の多様な能力の開発を促進する。</p> <p>5 「就職に強い大学」として、高い評価を受けている現状を継続していくために高水準の就職率を維持する。</p> <p>6 高大接続を目的とした取得資格特待制度による入学者のケアに力を入れ、必要に応じて体制を整備する。</p>
<b>事業 計画</b>	<p>1-1 各入試区分において志願者の増加を目指して効果的な入試広報活動を実施する。</p> <p>  -2 特待基準（特に学力特待、取得資格特待）を公開して一定層の学生が安心して受験できる体制を確立する。</p> <p>2-1 カリキュラムポリシーに則って、単位認定、卒業認定および修了認定について各基準を厳正に適用する。</p> <p>  -2 修正された3つのポリシーを周知し、教育の質保証や達成度判定に有用な形式を整える。</p> <p>3 現行の履修モデルに沿った履修を促進すると同時に、公務員対策モデルのプログラム化に向けた整理を行う。</p> <p>4 グローバル人材養成プログラムの3年生に対する特講およびキャリアプランニングの内容を具体化し、米国またはアジア圏での中期海外インターンシップを実施する。</p> <p>5-1 キャリアプランニングの実施体制を改め、各学年のプログラムを着実に実施する。</p> <p>  -2 専門演習の担当者を含む全学態勢において、学生の就職支援を行う。</p> <p>6 取得資格特待制度によって入学する学生向けの教育内容（プログラム）を実施する。これらの実施状況を高校に周知することで本学との接続の有用性を示す。</p>
<b>(Do)</b> 実施	<p>1-1 新規の入試区分を含む入学試験を実施した。（入試委員会）</p> <p>2-1 カリキュラムポリシーに則って、単位認定、卒業認定および修了認定を行った。（学務委員会）</p> <p>  -2 修正された3つのポリシーを周知し、教育の質保証に向けた仕組みを構築した。</p> <p>3 履修プログラム（公務員対策モデル）および簿記検定取得を目的としたプログラムを具体化した。（カリキュラム検討委員会）</p> <p>4 グローバル人材養成プログラムに所属する3年生向けのグローバル特講の内容を具体化し、4名の学生の海外インターンシップ（海外中期実習、海外長期実習）を実施した。（グローバル人材養成プログラム推進委員会）</p> <p>5-1 キャリア支援委員会委員の担当によって各学年のプログラムが実施された。</p> <p>  -2 専門演習の担当者を含む全学態勢において就職支援を行った。</p>

	6 取得資格特待制度によって入学した2名の学生に向けた簿記およびグローバルプログラムを実施した。				
<b>(Check)</b> <b>点 検</b>	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 各区分の入学者数とアドミッションポリシーとの整合性 (入試区分の入学者数、学校案内、募集要項)		1-1 学校案内、募集要項、教授会資料		
	-2 高校の教員や受験生への明確な特待基準の周知状況(教授会資料=募集要項・ホームページ)		-2 募集要項、大学ホームページ		
	2-1 単位認定や卒業認定の状況(教授会資料=卒業判定会議等、委員会資料・各科目の単位認定状況)		2-1 卒業判定会議資料		
	-2 学習成果の「見える化」に向けた検討状況(教授会資料、カリキュラム検討委員会)		-2 カリキュラム検討委員会議事録、教授会資料		
	3 履修モデル(プログラム)改定状況と履修者の状況(教授会資料、卒業判定会議資料)		3 第10回教授会資料、卒業判定会議資料		
	4 3年生の海外インターンシップ実施状況(教授会資料、委員会報告)		4 グローバル特講V、海外中期実習、海外長期実習のシラバスおよび履修名簿、第12回教授会資料		
	5-1 キャリアプランニング、インターンシップの実施状況(教授会資料、キャリア支援センター・学務の委員会報告)		5-1 教授会資料		
-2 4年生の就職状況(キャリア支援委員会の報告、教授会資料)		-2 教授会資料			
6 各種プログラムの実施状況、教育プログラムの策定・周知状況(教授会資料、高大連携委員会の報告等)		6 第10回教授会資料			
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
	事業目標2	○			
	事業目標3	○			
	事業目標4		○		
	事業目標5		○		
	事業目標6	○			

<p><b>評 価 理 由</b></p>	<p>事業目標 1：新規の選抜方法を含む入学試験を実施した。</p> <p>事業目標 2：カリキュラムポリシーに則って、単位認定、卒業認定および修了認定を行った。修正された 3つのポリシーを周知し、教育の質保証に向けた仕組みを構築した。</p> <p>事業目標 3：新規の履修プログラムを構築し、次年度からの実施に向けた準備を行った。</p> <p>事業目標 4：米国、シンガポールでの海外インターンシップを実施した</p> <p>事業目標 5：キャリア支援委員会委員の担当によって各学年のプログラムが実施された。</p> <p>事業目標 6：取得資格特待制度によって入学した 2名の学生に向けた簿記およびグローバルプログラムを実施した。</p>
<p><b>(Action) 改 善</b></p>	<p>事業目標 1：新規入試制度による効果の検証</p> <p>事業目標 2：新規の 3 ポリシーの更なる浸透に向けた取り組み</p> <p>事業目標 3：各種プログラムの周知方法の検討</p> <p>事業目標 4：海外インターンシップ実施におけるビザ取得支援の強化</p> <p>事業目標 5：就職支援に向けた全学的体制および各教員の役割等の確認</p> <p>事業目標 6：取得資格特待制度（英語）による選抜基準の明確化</p>

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：看護学部

<p><b>(Plan)</b> 事業 目標</p>	<p>1. 3つの方針（AP、CP、DP）、教育課程に基づいた教育を適正に実施する。 2. 入学志願者の増加を図る。 3. 国家試験合格率 100%を目指す。 4. 教員の教育力の向上及び研究活動を推進する。 5. 海外協定校等との交流及び学生の海外留学を推進する。</p>
<p><b>事業 計画</b></p>	<p>1-1 3つの方針（AP、CP、DP）、教育課程に基づいた教育の点検・評価を行う。 -2 専門領域毎の教員と実習指導教員数を確保し、専任教員と非常勤教員が連携を密にして実習指導を行う。 -3 各学年アドバイザーが中心に、担当クラスの各学期の GPA 分布を把握して学生を指導し学力の向上を目指す。</p> <p>2-1 2023 年度志願者の動向を分析する。 -2 志願者増加に向けて対策を講ずる。</p> <p>3-1 国試対策プログラムの実施と評価を共有する。 -2 各学年アドバイザーによる模試等の対策を実施し、学生に学力向上の動機づけをする。</p> <p>4-1 教員の教育力の向上のために F D 委員会・実習委員会研修会活動への参加を促す。 -2 教員の研究力の向上のために研究推進委員会企画の研修会等への参加を促す。</p> <p>5-1 海外協定校との教員間の共同研究や交流の推進、及び留学生の受け入れの可能性について検討する。 -2 本学留学生と学生間の学際的交流を深める。 -3 学生の海外留学を推進する。</p>
<p><b>(Do)</b> 実施</p>	<p>1-1 各科目教員・関連部署と調整・連携しながら、学務委員会を中心に計画通りカリキュラム（旧・新）を遂行した。 -2 成人看護学領域助手1名を採用。実習指導教員（非常勤）7名の協力を得ることができた。 -3 各年次のアドバイザーが中心となり、各学期 GPA 等の学修成果を活用して随時学修指導を行った。</p> <p>2-1 2023 年度実施の 2024 年度入試状況は以下の通りである。公募制推薦（定員 40 名）の志願者は 45 名（倍率 1.13 倍）で全員入学した。特別選抜（若干名）は志願者 1 名（社会人）が入学した（昨年 0 名）。新設した総合型選抜（定員 5 名）の志願者 1 名（0.2 倍）が入学した。一般 1 期と 2 期（定員 23 名）の志願者は各 22 名・6 名（倍率 1.22）であり、入学者は各 17 名・2 名であった。共通テスト利用 1 期と 2 期・3 期の志願者（定員 17 名）は各 27 名・6 名・1 名（倍率 1.48）で、入学者は各 4 名・1 名・0 名であった。全入試による入学者は 71 名であり、2014 年に看護学部開設以来初めて 9 名の定員減となった。</p>

	<p>－ 2 年3回のオープンキャンパスを実施し、今年から参加者への入学検定料割引制度の導入と保護者対象の企画を新設した。高校訪問、各種進学ガイダンスのほか、3月に短大と合同で、小学生を対象に「ミライのおしごと体験イベント」(定員6名)を新規に実施し、小学生6名と保護者を含め10数名の参加があった。</p>	
	<p>3－ 1 4年次学生に対して計画に沿って対策講座と模擬試験を実施し、模擬試験の結果については可視化して教授会にて報告した。また、模擬試験の成績をもとに個別面談を実施し、特別対策対象学生を選出して学習会を実施した。</p> <p>－ 2 1～3年次学生に対して各学年アドバイザーが模擬試験を実施し、結果を学生にフィードバックした。</p>	
	<p>4－ 1 FD委員会では、教学マネジメント委員会等との共催も含め「学習成果の可視化」「大学におけるポートフォリオ」「アクティブ・ラーニングワークショップ」「シラバス作成」に関する全教員対象FD研修会、「心理的安全性」に関するSD研修会を企画・運営した。学部別では「近頃の看護学生の特徴と指導上の留意点」について研修会を実施予定である。実習委員会では、非常勤教員も参加し、3回研修会(3/29:「令和5年度の実習計画」と「臨地実習における学生面談時の関わり方の自己評価項目」、8/2:「合理的配慮が必要な学生への対応」、12/6:実習指導場面の事例検討)実施した。各種研修会開催に対して、教授会等で教員に周知されている。</p> <p>－ 2 学術懇談会および外部資金獲得のためのよろず相談、大学の特色となる研究に関するシンポジウムを開催し、教授会にて周知し参加を促した。</p>	
	<p>5－ 1 海外協定校であるチュラロンコン大学看護学部との教員間の共同研究として、オンライン会議による検討および本学部教員3名が2月に訪問して学術交流を行った。また、サイアム大学看護学部への短期研修として、2月に本学学生6名及び教員1名が訪問して交流をした。さらに、8月に馬偕医護管理専科学校(台湾)の学生19名及び教員1名が夏季短期研修として本学を訪れ、授業や施設見学などを通して学生間交流を行った。</p> <p>－ 2 「国際医療論」、「看護研究Ⅰ・Ⅱ(専門基礎分野)」の授業において、本学留学生と学生間の学際的交流を実施した。</p> <p>－ 3 海外留学相談会等により、学生の海外留学を推進した。</p>	
<b>(Check)</b> <b>点 検</b>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	
	<p>1－ 1 カリキュラムの実施状況(学事暦、時間割、シラバス)</p> <p>－ 2 教員公募等の実施状況(学科会議記録、教員・非常勤実習指導教員の充足状況)</p> <p>－ 3 学生の学力に関する各種結果の分析状況(GPAの結果、国試模試結果等、学科会議記録)</p>	<p>点検結果</p> <p>1－ 1 令和5年度学事暦、令和5年度前・後学期時間割、シラバス</p> <p>－ 2 成人看護学領域助手1名採用に係る人事委員会記録。令和5年度実習指導体制(実習委員会作成)</p> <p>－ 3 各学生のGPAについては各アドバイザー記録、GPSアカデミック受検結果報告会、国試模試結果は国家試験対策委員会記録</p>
	<p>2－ 1 入試結果の分析状況(学科会議記録、入試広報委員会記録)</p> <p>－ 2 志願者に関する分析状況(学科会議記録、入試広報委員会記録)</p>	<p>2－ 1 学科会議記録(2月)</p> <p>－ 2 第7回(10月)、第8回(11月)、第11回(2月)学科会議議事録</p>

	3-1 国試対策の策定と結果の状況（学科会議記録、国家試験結果）	3-1 委員会議事録、模試結果一覧（Excel ファイル）			
	3-2 対策講座の運営状況、国家試験勉強の実施状況	3-2 委員会議事録、特別対策出席簿（Excel ファイル）			
	4-1 FD 活動への教員の参加状況（学科会議記録、FD 委員会記録） 実習委員会活動への教員の参加状況（学科会議記録、実習委員会記録）	4-1 FD 研修会への参加は、委員会内出席名簿を作成している。参加者数や実施後のアンケート数は FD 報告書、アンケート結果で部局長会議、教授会等で報告している。今年度は産休退職者以外全員一度は研修会に参加している。 実習委員会研修会記録、研修会アンケート結果、実習委員会議事録（参加者、人数、アンケート結果）			
	-2 研究推進委員会活動への教員の参加状況（学科会議記録、研究推進委員会記録）	-2 研究推進委員会議事録、学術懇談会等の参加状況データ（参加者、人数、アンケート結果）			
	5-1 海外協定校との交流に関する進捗状況（学科会議記録、協定校との共同研究 WG 記録）	5-1 学科会議記録、サイアム大学・チュラロンコン大学学術交流 WG 会議記録、チュラロンコン大学オンライン会議録、馬偕看護管理専科学校夏季短期研修報告書			
	-2 本学留学生参加の授業実施状況（授業計画と実施報告）	-2 「国際医療論」、「看護研究 I・II（専門基礎分野）」授業計画、実施報告（本学ホームページ、看護研究報告会）			
	-3 留学の状況（国際交流センター会議議事要録）	-3 国際交流センター会議議事要録			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2			○	
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
評価理由	<p>事業目標 1：カリキュラムは確実に実施できたが、学務委員会では組織的シラバスチェック、学部としては引き続き教員確保が課題となった。</p> <p>事業目標 2：今年度すべての入試の志願者は 108 名で、昨年度より 21 人減であった。入学者 71 人であり、9 人の定員減となった。</p> <p>事業目標 3：事業計画に基づいて実施できたが、実習中および看護研究終了までの期間の学習、また特別対策の学習会で使用する問題および出席率</p>				

	<p>の低い学生への対応が今度の課題となった。</p> <p>事業目標4：FD委員会、実習委員会への参加率は高い。研究推進委員会の研修会への参加は、第1・2回は30%代で第3回は約60%であった。</p> <p>事業目標5：海外協定校との共同研究や学生間交流、本学留学生と学生間の学際的交流、学生の海外留学の推進の目標は達成したが、留学生の受け入れについては今後の課題となった。</p>
<p><b>(Action)</b> <b>改善</b></p>	<p>事業目標1：組織的なシラバスチェックについて両学部学務委員会で実現可能な方法を検討し実施する。教員公募を継続していく。</p> <p>事業目標2：入試広報センターと連携して志願者の動向を分析して、志願者確保対策を検討し実施する。</p> <p>事業目標3：特に、成績下位の学生の実習中および看護研究終了までの学習内容と方法について検討し実施する。</p> <p>事業目標4：学科教員の研究推進委員会の研修会への参加状況について分析し、参加率向上を図っていく。</p> <p>事業目標5：本学部への留学生の受け入れの可能性について、今後も検討する。</p>

令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：図書館情報センター

<p>(Plan) 事業 目標</p>	<p>1. 長期的視点から必要図書の検討と充実を図る 2. 教員・学生双方が満足する図書・企画の充実を図る 3. 変化するニーズに対応した図書館業務を推進する</p>	
<p>事業 計画</p>	<p>1-1 雑誌価格状況とニーズを踏まえ、購入雑誌や方法の検討を行う。 -2 紙媒体以外の書籍導入・活用を検討する</p> <p>2-1 教員と学生協働による図書充実の企画を実施する -2 留学生対応図書の充実を図る</p> <p>3-1 利用者の非来館対応を含めたサービスを検討する</p>	
<p>(Do) 実施</p>	<p>1-1 在職教員に和雑誌の購読雑誌調査を実施し、ニーズに即した購読雑誌タイトル見直しを行った。 -2 紙媒体以外の情報購入として、百科事典系や新聞データベース購入に向けた検討を行った。</p> <p>2-1 それぞれの学部、短大、専門学校においての必要図書を検討購入した（図書705冊・映像資料7点）。また、前期1回から前期・後期の2回の選定に増やし、必要図書をより早く所蔵するよう努めた。学生参加型イベントを1つ実施、選書ツアーは7名参加48冊の図書が選ばれ、図書紹介POPとともに展示した。</p> <p>2-2 留学生母国語図書（ベトナム語・タイ語・中国語・韓国語）を17冊購入した。購入図書のデータベース整備を進め、本学所蔵洋書がCiNii booksを通じて全国から所蔵検索可能とした。</p> <p>3-1 洋雑誌の購入方法見直しにより、オンラインでの洋雑誌閲覧を継続した。その他の非来館対応については継続検討中。</p>	
<p>(Check) 点検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>
	<p>1-1 必要図書購入検討の実施状況（和雑誌購入内容検討記録、選定図書検討記録）</p>	<p>1-1 【議事要録】令和5年度第1回図書館情報センター会議 議事要録 【議事要録】令和5年度第6回図書館情報センター会議 議事要録 ・選定図書（前期・438点）.xlsx / ※後期分274点は2024.3月中旬納品予定 【議事要録】令和5年度第3回図書館情報センター会議 議事要録 ・留学生母国語図書（17冊）.xlsx ・選書ツアー（48冊）.xlsx</p>
	<p>2-1 教員と学生協働の実施記録（ビブリオバトル関係、選書ツ</p>	<p>2-1</p>

	アー、読書マラソンの記録) - 2 留学生用図書購入の実施状況(留学生用図書購入経緯の記録)		【議事要録】令和5年度第5回図書館情報センター会議 議事要録 ・1.実施要綱(ビブリオバトル) ・2.開催要項 ビブリオバトル in AC 2023.pdf ・3.募集要項 ビブリオバトル in AC 2023.pdf ・R5 選書ツアー:申込用紙(10月) ・選書ツアー(48冊).xlsx ・読書マラソン★POP提出状況一覧.xlsx - 2 ・留学生母国語図書(17冊).xlsx		
	3-1 非来館対応を含めたサービスの検討状況(電子書籍導入の検討記録)		3-1 【議事要録】令和5年度第9回図書館情報センター会議 議事要録		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
	事業目標2			○	
	事業目標3			○	
評価理由	事業目標1:昨年度達成した洋雑誌購入形態の見直しと和雑誌のニーズ調査により、より充実した購入に結びつけた。 事業目標2:留学生のニーズに応える書籍購入は実現した。しかし学生との共同行事であるビブリオバトルは申込者が集まらず達成できなかった。 事業目標3:電子書籍についての検討は行ったが、導入には至らなかった。				
(Action)改善	事業目標1:これまでの検討成果を、どのように見直しを図りつつ継続するか、その視点及び方法を検討する。 事業目標2:学生の気質が変わりつつある中、読書にどう親しませるかの手立てを踏まえつつ、行事を企画する。 事業目標3:電子書籍については、本学の実態を踏まえつつどのような方向性があるか、さらに慎重に検討を重ねる。				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

国際交流センター

<p>(Plan) 事業 目標</p>	<p>1. 留学生の効果的な募集活動を展開する 2. 学園内の国際交流活動の推進を通じて異文化社会に対応できる人材を育成する 3. 卒業生のネットワーク化を行う 4. 地域のグローバル化に貢献するために地域の各分野と連携を計る 5. ウィズコロナでの国際交流事業方針を策定する</p>
<p>事業 計画</p>	<p>1-1. 海外協定校との関係強化及び新規協定校の開拓により、国内外の留学生の獲得に努める。 -2. 入学前の留学生に対する教育を強化する。 -3. 要支援留学生の支援体制を整え、チューターの活用を強化する。また、日本語 e-learning システムの構築を検討する。 -4. キャリア支援センターが実施する留学生就職支援プログラムに協力する。</p> <p>2-1. 海外の協定校との交換留学生制度を活用し、短期受入プログラムを促進する。 -2. 協定校との人的交流を促進し、教員の短期受け入れについて検討する。また、コロナの状況を鑑みオンライン等での交流を継続する。 さらに、海外の大学等との共同キャンパスの設置及び相互利用、教員間の共同研究を促す。 -3. 学内外の行事等における留学生と日本人学生（チューターを中心とする）の交流を促進し、文化や習慣の理解を深める。 -4. 海外留学希望の日本人学生に語学準備講座（英語・中国語・タイ語・ベトナム語・韓国語）や手続き等の支援を行う。または留学必修化の検討（中期）。 -5. 学内留学の推進、本学の教職員及び卒業生による外国文化講座の実施。 -6. 学生のニーズに合った短期派遣プログラムおよびリモート留学プログラムを開拓する。</p> <p>3-1. 外国人卒業生の進路状況を把握し、情報を共有しながら連携を継続する。 -2. 海外同窓会未設立の国での新規設立と総会等の開催を行う。</p> <p>4. 地域社会に貢献するために、行政や教育機構及び民間団体との連携をより一層強化していく（中期）。</p> <p>5. オンラインツールを活用した国際交流および共同研究を推進する。</p>
<p>(Do) 実施</p>	<p>1-1 従来の協定校との協力関係は、コロナの影響があっても、弱まることはなく、双方とも緊密な関係を維持しており、常に情報を共有している。また、国内外の新規協定校の開拓も絶え間なく進行している。留学生の学習意欲や生活力、人間性などの教育についても、積極的に指導を強化している。 -2 オンラインを活用し、入学前の日本語教育を実施した。</p>

	<p>— 3 要支援留学生の早期発見に努めている。この支援には、関連する教職員や学生チューターを活用している。</p> <p>— 4 キャリア支援センターが実施する就職支援プログラムに協力した。卒業後の法的及びその他の手続きについては、コロナの影響で法的に柔軟な措置が取られていたため、卒業後も継続して周知し、支援している。</p>	
	<p>2— 1 海外の協定締結校との交換留学生制度について、双方向の交換は実現できたが、コロナ禍後の回復に時間がかかり計画通りの人数には至らなかった。新たな短期プログラムを2回実施し、入学者の獲得につなげることもできた。</p> <p>— 2 協定締結校との人的交流の促進及び教員の短期受入れについて、この数年間は実現できなかったが、今年度は再開できるようになった。</p> <p>— 3 学内外の行事などがコロナの影響で中止になることが多かった中、今年度はすべての活動が再開できるようになった。</p> <p>— 4 海外留学プログラムへの参加希望のある日本人学生に対する語学準備講座（英語・中国語・タイ語・ベトナム語・韓国語）の開催については、例年通り実施している。</p> <p>— 5 グローバルな人材育成を推進するための学生のニーズに合った短期派遣プログラムは、今年度は実現できたため、一定の成果を上げている。</p> <p>— 6 コロナ禍で中断していた、短期海外アクト（台湾）、看護学部海外研修（タイ）を再開し、別科で新たに短期海外研修1件を実施した。</p>	
	<p>3— 1 外国人卒業生の進路状況は可能な限り把握し、情報を共有しながら連携をしている。</p> <p>— 2 海外同窓会未設立の国での新規設立と総会等について、中国大連の同窓会の設立は準備態勢が整いつつあったが、コロナの影響により延期となっている。総会等もコロナ後の影響により、入国制限等により実現しなかった。</p>	
	<p>4 地域社会への貢献を目指し、本学はその役割を果たすべく、特にこのような時期において、行政、教育機関、および民間団体との連携を様々な手段で一層強化するために、積極的な努力を行っている。</p>	
	<p>5 オンラインを活用した教育プログラム(NTTU、南台科技大)、共同研究（チュラロンコン大）を実施した。</p>	
<b>(Check)</b> <b>点 検</b>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>
	<p>1— 1 留学生の状況（入学者数一覧） 海外協定校数</p> <p>— 2 入学前教育の実施方法及び内容（実施記録）</p> <p>— 3 要支援内容（要支援記録）</p> <p>— 4 就職支援プログラム数（実施日程表）</p>	<p>1— 1. 入学者一覧 海外協定校一覧</p> <p>1— 2. 実施記録</p> <p>1— 3. 要支援記録(プロフィール含む)</p> <p>1— 4. 実施日程表</p>
	<p>2— 1 派遣及び受入数（派遣・受入数一覧）</p> <p>— 2 協定校との人的交流等の検討状況（検討記録）</p> <p>— 3 学内外の留学生と日本人学生の交流内容（交流記録一覧）</p> <p>— 4 語学準備講座の開講状況（参加者一覧）</p>	<p>2— 1. 派遣・受入数一覧</p> <p>2— 2. 検討記録</p> <p>2— 3. 交流記録一覧</p> <p>2— 4. 参加者一覧</p>

	— 5 学内留学の進捗状況（記録）	2 - 5. 進捗記録			
	— 6 短期派遣プログラム開拓の進捗状況（記録）	2 - 6. 進捗記録			
	3 - 1 卒業生の進路実績（実績一覧）	3 - 1. 実績一覧			
	— 2 海外同窓会の新規設立と総会の進捗状況（設立・開催記録）	3 - 2. 設立・開催記録			
	4. 行政や教育機構及び民間団体との連携などの進捗状況（記録一覧）	4. 記録一覧			
	5. オンラインツールを活用した交流内容（交流記録一覧）	5. 交流記録一覧			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
評価理由	<p>事業目標 1：コロナ禍後の回復に時間を要しているため、留学生の入学者数は増えてはいないが、次年度以降の入学者増に向けて各国で募集活動を実施できた。</p> <p>事業目標 2：コロナ禍で中止・停滞していた活動の再開ができ、活動内容についてもコロナ禍前の状況に近づいてきている。</p> <p>事業目標 3：中国での新規設立はできなかったが、設立に向けた準備はすすんでおり、その他の国についても学生募集を始め様々な活動について卒業生の協力があった。</p> <p>事業目標 4：コロナ禍で中止・停滞していた活動の再開ができ、活動内容についてもコロナ禍前の状況に近づいてきている。</p> <p>事業目標 5：具体的な共同教育、共同研究が実施できた。</p>				
(Action) 改善	<p>事業目標 1：これまでの募集活動を実際の入学者へつなげるための活動を継続して実施していく。</p> <p>事業目標 2：新たに実施したプログラムの定着を図っていくとともに、日本人学生の留学等へ向けた機運を高める工夫を継続していく。</p> <p>事業目標 3：より効果的な卒業生の活用について継続的に取り組んでいくとともに、卒業生へ向けた広報活動をすすめていく。</p> <p>事業目標 4：特定の学生に限らず、より多くの学生が参加できるようにしていく。</p> <p>事業目標 5：今年度実施したプログラムが年度進行により、より多くの事業が出てくるため効率的に実施できるようにすすめていく。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報センター

<p><b>(Plan)</b> 事業 目 標</p>	<p>1. 学園各設置校において、入学定員に沿った志願者数増加に向けた入試制度の検討と広報活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者動向調査を進めるとともに、受験者にとって魅力的な入学試験制度を設計する。(青森田中学園中期経営計画 5-1①)</li> <li>・参加対象者に応じた広報ツールおよび実施方式(オンライン・対面)を選択し、実施する。(青森田中学園中期経営計画 5-1②)</li> </ul> <p>2. 令和6年度大学入学者選抜実施要項に基づき、学院大学・短期大学の入学者選抜を実施する。</p> <p>3. 専門職の“なり手”の早期創出に繋がる企画を検討、実施する。(青森田中学園中期経営計画 5-1⑤)</p> <p>4. 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項に基づき、運営体制の構築を行い、試験を実施する。</p> <p>5. 高大連携委員会と連携して情報収集、各種制度のPRを行う。(青森田中学園中期経営計画 5-2)</p> <p>6. 各学部学科における多様な入学生の受け入れ体制作りに向けた検討内容に沿って、必要に応じた入試制度の検討と広報を実施する。(青森田中学園中期経営計画 5-3)</p>
<p><b>事業 計 画</b></p>	<p>1-1 志願者数の増加(前年度比)を目指す。</p> <p>2-1 令和6年度入試制度変更点について、オープンキャンパスやオンラインを活用した広報活動を行う。また、令和7年度入試制度についても、各委員会ワーキングでの検討を進め、令和5年度前期での予告公表を目指す。</p> <p>2-2 学院大学・短期大学における一般選抜入学試験問題について、作問と試験問題のチェックを行う。令和7年度入学試験実施に向けた作問者の調整に着手する。</p> <p>3-1 令和4年度に短期大学で先行実施した企画の振り返りを行い、他設置校への規模拡大の可能性を探る。</p> <p>4-1 学院大学と短期大学教職員による共同実施体制を12月上旬までに確定させる。また、オンラインを活用した説明会を開催し、担当者の理解を深めた上で試験を実施する。</p> <p>5-1 高大連携委員会において検討された内容を入試広報センターおよび入試広報委員会で共有した上で、高校側に広報する。</p> <p>6-1 各学部学科における検討内容を共有し、入試制度として導入が必要な場合には、検討の場を速やかに設ける。</p>
<p><b>(Do)</b> 実 施</p>	<p>1-1 入試日程途中である。前年度との比較は年度末となる。</p> <p>2-1 令和6年度入試制度変更点について、オンラインにて周知。OP等でも説明。各高校にパンフレットと共に案内。</p> <p>2-2 10月の作問者会議において、文科省の作問上の要請等を周知して頂く案内をした。</p> <p>3-1 「ミライのおしごと」は3月下旬開催に向け、短期大学だけでなく、学院大・看護学部も参画する予定で最終調整中である。更に、年度当初にはなかった「おしごとゼミ」という年間を通した“なり手”創出イベントを複数回開催した。</p> <p>4-1 実施に向けた体制整備と説明会開催について、予定通り実施した。</p>

	5-1 協定校との連携事項について、学生募集に繋げるように入試広報委員会と共有している。				
	6-1 短大・入学試験委員会にて検討された経済支援制度実施時期の拡充および専攻科入学試験の追加実施について広報活動を行った。				
<b>(Check)</b> <b>点 検</b>	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 各設置校の志願者数状況（各設置校の入学試験結果一覧）		1-1 入試日程途中のため、年度末に試験結果を集計する。		
	-2 (1)OC、相談会、講座等の実施状況（実施要項、実施結果一覧、参加者アンケート） (2)ワーキングでの検討状況（打合せ資料、教授会資料、HP掲載原稿）		-2 (1)・OC実施要領:経営法学部・看護学部入試広報委員会資料(第1~4回)、短大入試広報委員会資料(第2~4回) ・OC実施結果：OC実施要領:経営法学部・看護学部入試広報委員会資料(第2,4,5回)、短大入試広報委員会資料(第1,24回)、短大教授会資料(第6回) ・各種相談会結果:毎回の委員会資料(学院大・短大とも) (2)経営法学部入試広報委員会資料(令和4年度第11回、令和5年度第9回)、看護学部教授会資料(第2回)、短大入学試験委員会資料(令和4年度第13回)、学院大・短大ともHP掲載原稿(6月23日付公表)		
	2-1 作問は適切に行われたか。（作問担当者会議資料、受験者からの質問（試験当日）の有無等）		2-1 一般試験は2月と3月のため、作問にたいする評価はこれから。		
	3-1 (1)短期大学「ミライのお仕事体験イベント」実施状況（参加者アンケート） (2)学院大入試広報委員会、専門学校、その他関連部署と情報・アイデア共有の状況（打合せ資料）		3-1 (1)「ミライのおしごと」は3月23日に開催後には集計予定である。 (2)入試広報センター会議議事録(第1回)、看護学部入試広報委員会議事録(第4,6~9回)、短大入試広報委員議事録(第2~5,7回)、「おしごとゼミ」開催チラシ(7月、9月、11月)		
	4-1 体制整備の状況（担当者組織一覧）、説明会の開催および当日の実施状況。（学内担当者マニュアル、振り返りアンケート）		4-1 組織一覧および学内担当者マニュアル(学内補助資料)、チームズ上にて振り返りアンケートを実施済み。		
	5-1 入試広報センターおよび入試広報委員会との情報共有の状況。広報活動における状況。（入試広報委員会議事要録等）		5-1 高大連携委員会と入試広報委員会と共通する高校の本学訪問等の事項はそのつど両委員会において報告。		
6-1 情報共有の状況（打合せ資料）		6-1 短大・入学試験委員会資料(第6回~8回)			
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった

	事業目標 1		○		
	事業目標 2	○			
	事業目標 3	○			
	事業目標 4	○			
	事業目標 5		○		
	事業目標 6		○		
<b>評 価 理 由</b>	<p>事業目標 1：総合型入試を高校生の探究の学習に合わせて受験しやすくした。高校生は携帯からオンラインによる学園情報を得やすくした。</p> <p>事業目標 2：令和 6 年度入学者選抜実施要項に基づき、入試を実施した。</p> <p>事業目標 3：「ミライのおしごと」に看護学部が新規参画(見込み)である。また、通年企画である「おしごとゼミ」を新規で立ち上げ、複数回実施できた。</p> <p>事業目標 4：教職員の協力体制のもと実施できている。</p> <p>事業目標 5：入試広報を広めるべく高大連携と情報共有し、入試につながるよう高校生に情報提供している。</p> <p>事業目標 6：短大受験者のニーズに応じた変更を実施した。</p>				
<b>(Action) 改 善</b>	<p>事業目標 1：高校生の探究の学習による志願者増の周知活動を行う。</p> <p>事業目標 2：令和 7 年度大学入学者選抜実施要項に基づき、入学者選抜を実施する。</p> <p>事業目標 3：継続した実施を実現しつつ、入試広報センターの他業務とのバランスを得るために、他部署との連携体制構築を図る。</p> <p>事業目標 4：再来年度の 〆 での担当に備えて検討する。一部教職員の協力が得られない現状のため、学園全体として一層の理解を得る。</p> <p>事業目標 5：高大連携協定校はもとより入試関連情報を高大連携委員会と情報共有を行う。</p> <p>事業目標 6：短大・四大の受験機会に受験者のニーズに応じた変更を実施する。</p>				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：キャリア支援センター

<b>(Plan)</b> 事業 目標	1. 高水準の就職率維持。 2. 多様化するニーズに対応したセンター機能の向上。	
<b>事業 計画</b>	1-1 就職率の維持に直結する学内実施の企業セミナー、病院等説明会等を各設置校の参画の下で実施し、内容の充実を図る。	
	2-1 地元就職、県外就職、留学生の国内就職、卒業生の相談等、様々なニーズに対応する。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 学内企業就職セミナー（経営法学部、留学生、短大生、経理専門学校生対象）を令和6年3月1日に実施。病院等説明会を令和6年3月8日に実施。	
	2-1 オンラインによる留学生限定学内企業説明会を令和6年3月18日に実施。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 企業説明会等の実施状況と最終就職率(実施状況、就職率)	1-1 学内企業就職セミナー実施状況(令和6年3月1日) 50企業・団体の参加により、10会場で実施。学生136名参加 病院等説明会実施状況(令和6年3月8日) 29施設参加で実施。学生130名参加。 最終就職率(令和6年3月31日現在) 経営法学部94.9%(うち日本人学生97.5%)、看護学部看護学科100%、 別科助産専攻100%、短大食物栄養学科100%、幼児保育学科100%、 専攻科福祉専攻100%、青森中央経理専門学校96.6%、青森中央文化 専門学校100%。
2-1 支援体制強化に向けた活動状況(実施状況、センター利用状況)	2-1 センター利用状況実績は令和6年3月31日現在、累計784件。 オンラインによる留学生限定学内企業説明会には10名が参加した。	

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
評 価 理 由	事業目標 1： 前年比遜色ない極めて高水準の就職内定率を維持している。 事業目標 2： センターでの相談対応、サポートイベントの実施、インターンシップの充実などで、学生のニーズを把握しながら対応している。				
(Action) 改 善	事業目標 1： 高水準の就職率維持を堅持する。 事業目標 2： 留学生の多様なニーズをさらにサポートしていく。				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：学習支援センター

<b>(Plan)</b> <b>事業 目標</b>	<p>1. 個々の学生に寄り添った支援を充実させ、退学者を一人でも減らす</p> <p>2. 多様な学生に応じた環境の構築と経験機会の創出に努めて、学内外における学生活動を活性化する</p> <p>3. 学力の底上げを図るとともに、学生自らが付加価値をつけるためのチャンネルを増やす</p>
<b>事業 計画</b>	<p>1-1 学業および学習機会支援（学務委&amp;課と学業継続のための支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゼミやクラスの担当教員・授業担当教員・学務・部活指導者・保護者らと連携した学生支援(情報の相互提供と活用含む)</li> <li>・ 要支援学生のカウンセリング強化、学習規律の確立：心理カウンセリングの充実</li> <li>・ 学習・発達障がい等、なんらかの事情で困り感を抱えた学生への支援体制整備と合理的配慮の実施：研修会の新サイクル計画実施、合理的配慮提供内容の妥当性の検証</li> </ul> <p>-2 学生からの相談への対応策充実 学生相談室、健康管理室の活用呼びかけ、対応の充実、相談内容管理の徹底</p> <p>-3 学生相談記録の充実、各種学生情報の収集と管理</p> <p>-4 学生サービスに対する学生からの意見・要望聴取(全学対象のアンケート実施)</p> <p>-5 学生生活上のリスクに対する注意喚起</p> <p>-6 経済的困窮を抱えた学生に対する支援(情報提供、助言、学内ワークスタディ制度)</p> <p>-7 障がいのある学生の支援に関する体制の整備：改正障害者差別解消法、改正個人情報保護法、民法の一部を改正する法律（成年年齢関係）等の関係法令に則った支援体制のコンプライアンス精査および制度・規程の整備</p> <hr/> <p>2-1 サークル活動の更なる活性化への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフターコロナの活動再興に向けた働きかけ：新年度直後の新入部員獲得に向けた梃子入れ策</li> <li>・ サークル活性化に向けた環境整備・支援(勧誘・新規サークル立ち上げ・サークル運営支援含む)：顧問規定の作成</li> <li>・ 指定強化運動部支援(顧問(部長)・監督・コーチ会議実施、UNIVAS 加盟検討、募集協力、要支援学生向けガイダンス等)</li> <li>・ 学生プロジェクト支援制度</li> </ul> <p>-2 ボランティア活動・地域社会活動(学生の体験的な活動)の推奨・支援(情報提供、学生募集)</p> <hr/> <p>3-1 初年次教育と接続した入学前教育の実施（学部学科との連携による入学前学習およびリメディアル教育の実施）</p> <p>-2 エクステンション講座の拡充（日商簿記2級講座の複数クラス開設、日商簿記3級およびリテールマーケティング講座の継続実施）</p>
<b>(Do)</b>	<p>1-1 定例会議を開催し、支援を必要とする学生ひとりひとりの状況を丁寧に把握し、面談等につなげた。</p>

<p><b>実 施</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 2 学生相談室、健康管理室の活用呼びかけ、対応の充実(特にオンラインでの連絡)、相談内容管理の徹底、学部学科との連携の拡充を図った。</li> <li>- 3 入学前学習を含めた関わりによる早期の情報収集を行い、充実した学生支援を図った。学業支援として、入学前教育を実施し学生の個別指導やリメディアル講座との接続で基礎学力のフォローを実施した。</li> <li>- 4 他部署によるアンケートに連動した学生満足度調査について協議したが実施できていない。</li> <li>- 5 学期は全学年、後学期は一年を対象に資料を配付して注意を喚起した。</li> <li>- 6 学内ワークスタディ制度を活用した経済支援を図り、5件の新規業務を創出した。</li> <li>- 7 現行の各種規定や学内文書様式についてコンプライアンス精査を行い、必要な修正をおこなった。新年度より施行される改正障害者差別解消法に沿った「合理的配慮の提供」に関する研修会を企画し、実施した。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 アフターコロナにおける課外活動の活発化を狙い、新入生を対象に課外活動オリエンテーションを企画・実施した。</li> <li>- 2 同上</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3-1 入学前学習のサポートを実施（経法：個別指導、看護：入学前課題と指導、短大：オンラインドリルを導入し入学前から卒業まで活用）</li> <li>- 2 時代や社会のニーズに合った資格の選定・取得推奨し、学生の受講しやすい時間・負担に配慮しながらエクステンション講座を開講した。</li> </ul>	
<p><b>(Check)</b></p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>
<p><b>点 検</b></p>	<p>1-1 就学支援の充実、多様な学生に応じた環境構築の実施状況 （退学数・率の推移、要支援学生データ、新たに導入した合理的配慮・制度、発達・学習障害学生への対応に関する教職員研修内容、合理的配慮提供対象者アンケート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2 相談への対応状況(学生相談室・健康管理室の月別利用状況)</li> <li>- 3 相談記録状況(学生相談記録)</li> <li>- 4 学生からの意見・要望(アンケート結果)</li> <li>- 5 生活リスクの注意喚起状況(該当案件件数)</li> <li>- 6 経済支援状況(ワークスタディ制度利用者リスト)</li> <li>- 7 法令に則った支援体制状況(制度・規定の整備状況)</li> </ul>	<p>1 退学数・率の推移、要支援学生データ、学生相談室・健康管理室の利用状況、新たに導入した合理的配慮・制度、民法改正による成年年齢引き下げ・改正障害者差別解消法施行への対応に関する教職員研修内容</p>
	<p>2-1 指定強化サークル募集時の本学募集学生像伝達徹底、DEST活性化の実施状況（学生団体・活動状況、指定強化運動部指導者会議議事録、学生プロジェクト支援制度採択状況、入試関連部</p>	<p>2 学生団体・活動状況、指定強化運動部指導者会議議事録、学生プロジェクト支援制度採択状況、入試関連部門</p>

	門、部活指導者へのヒアリング、DEST 活動内容) -2 ボランティア・地域社会活動状況(参加学生・団体リスト)				
	3-1 入学前学習サポート状況 (課題内容、参加者数、個別指導結果)、リメディアル講座実施状況(受講日程、参加者人数、成果確認結果) -2 エクステンション講座の実施状況(エクステンション講座の日程表・時間割、参加者人数)		3 入学前教育全般及びエクステンション講座全般の実施要項・案内文書・日程表・時間割、参加者人数		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
評 価 理 由	事業目標 1 : 1-4に係る協議・調整はできていないが、他は概ね目標に到達。 事業目標 2 : コロナ禍により活動低迷した学生団体の活性化が道途上であるが、一方、学園祭の通常開催の再開もあり、各種活動はきわめて活発に行われた 事業目標 3 : 新規講座の拡充。				
(Action) 改 善	事業目標 1 : 1-4についてはアンケート実施の他部署との連携を図る。音信不通の学生との連絡方法について模索する。 事業目標 2 : 課外活動に対する意欲情勢の対象範囲を広げ、学生間の機運を涵養する。 事業目標 3 : 実施状況を確認し、必要に応じて講座内容をブラッシュアップする。				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：地域連携センター

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	1 頼られる教育機関として、連携協定を締結している機関と取り組む各種事業を着実に推進する。 2 学園全体の地域連携推進体制の一層の強化を図り、学生の地域への関心を高め、地域貢献の姿勢を育む。	
<b>事業 計 画</b>	1-1 連携機関及び各種団体等と連携・協働した事業を着実に実施する。 - 2 むつ市、弘前大学との協定に基づく「むつサテライトキャンパス」事業を推進する。 2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加を積極的にコーディネートする。 - 2 青森市産官学連携プラットフォーム事業に、学生の参加を促しながら積極的に参画し連携を図る。 - 3 サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数を向上させる。	
<b>(Do)</b> 実 施	1-1 事業の実績は団体数 14 件、活動回数 52 回で目標値を上回り、着実に取り組むことができた。 - 2 むつ市で開催された「大学祭」には本学から実行委員として 2 名、ステージ発表・展示に 2 団体が参加した。また、本学が主担である「教養講座」、「高校生向け講座」については 6 講座実施し、好評を博した。 2-1 42 名の教員、408 名の学生が地域社会と連携した活動に取り組み、大きく目標を上回ることができた。 - 2 6 つの事業を実施し 121 人の参加者があり、ほぼ目標どおりに実施できた。 - 3 より一層広報を強化してサテライトキャンパスの利活用を促したことにより、昨年度比で利用団体数 33%増、利用者数 12%の増であった。	
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目 ※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 連携して活動した団体の数及び活動の回数：団体数 10/活動回数 30 (実施記録) - 2 連携して実施した事業及び講座の回数：事業数 2/講座数 7 (実施記録)	1-1 連携して活動した団体の数及び活動の回数：団体数 14/活動回数 52 (実施記録) - 2 連携して実施した事業及び講座の回数：事業数 3/講座数 6(実施記録)
	2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加人数：教員数 15/学生数 200 (実施記録) - 2 連携した事業数及び参加者数：事業数 5/参加者数 100 (実施記録) - 3 「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数：	2-1 学生・教職員の地域社会と連携した活動への参加人数：教員数 42/学生数 408 (実施記録) - 2 連携した事業数及び参加者数：事業数 6/参加者数 121 (実施記録) - 3 「FRIENDLY WINDOW」の利用団体及び利用者数：団体数 20/人数 865 (業務日誌)

		団体数 10/人数 600 (業務日誌)			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2	○			
評 価 理 由	事業目標 1 : 概ね計画した事業 (活動)・講座を実施することができたことから、「Level III」とした。 事業目標 2 : 実績値において点検項目に掲げた目標値を、大幅に上回ることができた。				
(Action) 改 善	事業目標 1 : 各団体との連携の方策や事業実施のための方途が円滑に機能していることから、今後とも、更なる連携事業の充実に取り組んでいく。 事業目標 2 : サテライトキャンパスの更なる利活用の増進を図る方策として、小規模の講座及び各種サークル等の活動場所として提供できる旨の周知・広報に努める。				

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：地域マネジメント研究所

<b>(Plan)</b> 事業 目標	1. 地域課題の解決に向け、グローバルな視野に立脚した研究を推進する。 2. 地域の新時代への適応を促進するために、経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する各種取り組みを、地域と連携して実施する。	
<b>事業 計画</b>	1-1 研究所が独自に実施する特定テーマに関する受託ベースでの研究： 助成研究、寄付研究、受託研究、等の実施。 - 2 他機関との連携において展開する研究： 研究所外の機関と連携した、共同研究、共同調査、等の実施。 2-1 研究所独自の情報発信： 研究所年報・レターの発行。 - 2 外部と連携した情報発信： ビジネスセミナー、公開シンポジウム、社会デザイン・ビジネスラボ（商工会議所連携）、等の実施。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 助成研究2件（青森学術文化振興財団助成研究2件）。 受託研究3件（学生によるアオモリワーケーション体験・交流プログラム企画運営業務、東青地域若者定着・環流促進実証業務、八甲田牛レシピ開発業務）。 - 2 学外共同研究3件（ヘルスツーリズム、バリューチェーンプロセス協議会研究WG2テーマ、学生等による援農モデルの確立）。 学内共同研究1件（継続的地域経済産業調査）。 その他地域機関との共同調査・研究4件（青森県サイクル・ツーリズム推進協議会事務局、国際グリーンツーリズム推進、地域における新事業創出に関する可能性調査、県内各市町村の総合計画作成支援）。 海外共同研究4件（南台科技大学、サイアム大学、チュラロンコン大学、グエン・タット・ティン大学）。	
	2-1 『研究年報』第19号の発行（論文6本、研究ノート4本、資料3本）。第20号の原稿を募集。 ニュースレター10号の発行。 - 2 研究所主催ビジネスセミナーを10月に実施（テーマ「ビジネスと人権とは」）。 青森商工会議所連携による学生起業塾を7月、8月に開催。 社会デザイン・ビジネスラボ、青森市産官学連携プラットフォームとの連携による研究フォーラムを10月に開催（テーマ「課題の現場×新規事業」）。 青森学術文化振興財団助成による研究所セミナーを1月に開催（テーマ「これからの青森ワーケーションを考える」）。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 研究所が独自に実施する受託ベースでの研究の実施状況（研究・調査実施実績の有無、予定期間・予算との乖離、	1-1 実績報告書、研究成果報告書等の成果を点検した。

	成果の妥当性・有用性に関する研究所管理記録) - 2 他機関との連携において展開する研究・調査の実施状況 (研究・調査実施実績の有無、予定期間・予算との乖離、 成果の妥当性・有用性に関する研究所管理記録)		期初の計画に基づき、研究所独自の研究活動が実施されたことを確認した。 - 2 研究成果報告書等の成果を点検した。 期初の計画に基づき、他機関と連携した研究活動が実施されたことを確認した。		
	2-1 研究所独自の情報発信イベントの実施状況(発信有無、発信時期・内容の妥当性に関する研究所管理記録) - 2 外部と連携した情報発信イベントの実施状況(発信有無、発信時期・内容の妥当性に関する研究所管理記録)		2-1 年報・レター等を点検した。 期初の計画に基づき、研究所独自の情報発信が実施されたことを確認した。 - 2 イベント開催案内、参加者リスト、実績報告書等を点検した。 期初の計画に基づき、外部と連携した情報発信が実施されたことを確認した。		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
評価理由	事業目標 1 : 実施した研究の件数およびそれらの内容から、目標は達成できたと評価する。 事業目標 2 : 期初に計画していた案件は実施できたので、目標は達成できたと評価する。				
(Action) 改善	事業目標 1 : 地域課題の解決に向け、外部の研究資源を活用するとともに、外部ネットワークの強化に努めることにより、地域への貢献度を一層高めることに努める。 事業目標 2 : 地域課題、時流や社会の要請に対応するために、これまでの活動水準(質・量)の維持および外部との協業強化に努め、時代の変化に適応した研究を展開する。				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：看護実践センター

<p>(Plan) 事業 目標</p>	<p>1. 地域において看護師特定行為を実践できる人材を育成する。 2. 地域の看護職者の看護過程展開・看護研究能力の向上に貢献する。 3. 看護実践センターの活動を通じて地域連携・地域貢献を推進する。</p>	
<p>事業 計画</p>	<p>1-1 特定行為研修の適切な運営と点検 2-1 看護過程セミナーの適切な運営と点検（4回実施） 2-2 看護研究研修会の適切な運営と点検（初級者用3回、指導者用2回実施） 3-1 地域の関係機関・団体、実習施設への情報発信 -2 地域の看護職者や実習施設等の継続教育等についてのニーズの把握</p>	
<p>(Do) 実施</p>	<p>1-1 2023年9月末に3期生6名の修了生を輩出した。また、10月に4期生の選抜を行い6名が入講した。計画通り研修を実施している。 2-1 看護過程セミナーを参加者（11施設から23名）に対して、計画通り4回実施した。参加者23名中全4回参加の18名（78.3%）に受講証明書を発行。 -2 看護研究研修会（初級者編）を参加者（9施設から21名）に対して、計画通り3回実施した。指導者編研修会を参加者（7施設11名）に対して、計画通り2回（初級者編3回目1回+1回）実施した。受講証を初級者編17人、指導者編6人に発行した。 3-1 特定行為研修について、地域の看護者を対象に研修会（オンライン）やリーフレットによって周知を図った。看護過程セミナー及び看護研究研修の開催について青森市内の医療機関に周知した。 -2 看護過程セミナー及び看護研究研修の参加者に、受講後にアンケート調査を行った。</p>	
<p>(Check) 点検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>
<p>1-1 特定行為研修の実施状況（特定行為研修WG議事録、管理委員会記録）</p>	<p>1-1 特定行為研修WGを6回開催して議事録作成、管理委員会を1回開催して議事録を作成</p>	
<p>2-1 看護過程セミナーの実施状況（セミナー実施記録） -2 看護研究研修会の実施状況（研修会の実施記録）</p>	<p>2-1 看護過程セミナーを4回開催して参加者名簿記載、進行案・資料を作成。最終回にアンケートを実施、集計、報告書作成 -2 看護研究研修会を初級者編3回・指導者編2回開催して、最終回にアンケートを実施し、集計後に報告書作成</p>	
<p>3-1 情報発信の実施状況（セミナー・研修会等の案内、実施結果）</p>	<p>3-1 看護過程セミナー及び看護研究研修会等の実施結果(案内及び2023年度活動報告)</p>	

	- 2 ニーズ調査の実施状況（ニーズ調査の結果）		- 2 ニーズ調査用紙、ニーズ調査結果（看護過程セミナー及び看護研究研修会の2023年度活動報告）		
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
評価理由	<p>事業目標1：定員6名を確保して、研修計画に則って適切に運営できている。</p> <p>事業目標2：看護過程セミナーは難易度も妥当であり、参加者は新たな気づきや学びを得ており適切に運営されていると考える。看護研究研修会は研究への意欲の向上（初級編）や指導者としての自信につながった等（指導者編）の記載があり、実施状況は概ね良好であった。</p> <p>事業目標3：それぞれのアンケート結果から、地域の看護職者や実習施設等の教育等についてのニーズの把握することができた。</p>				
(Action) 改善	<p>事業目標1：実習協力施設を青森市内に1ヵ所確保して、区分別実習を更に円滑に実施したい。</p> <p>事業目標2：学んだ内容をより活かしていけるよう自施設の事例を持ち寄り臨床に沿った看護過程展開を実施する。看護研究研修会の初級編・指導者編の内容（棲み分け）について検討して、次年度に活かしたい。</p> <p>事業目標3：地域の医療職者の教育等のニーズについて検討する。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：基幹教育センター

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」等が示す教育内容について、本学での実施および発展を目指す。 1 学園設置校における AI、数理、データサイエンス教育の実施状況の確認と改善を行う。 2 ICT 活用教育を活発化させる。 3 設置校・学部を横断する教育導入に向けた体制を整備する。			
<b>事業 計 画</b>	1 学園設置校における AI、数理、データサイエンス教育の実施状況を把握し、一部教育内容の共通教育化に向けた検討を行う。また、高い技量の養成を目的とした「データ分析実践プログラム」の実施における支援を行う。 2 PC 必携化に伴う ICT 活用教育の活発化に向けた検討、提案を行う。 3 設置校・学部を横断する教育（リベラルアーツ教育、文理横断教育）の導入に向けてカリキュラム案を提案する。			
<b>(Do)</b> 実 施	1 AI、数理、データサイエンス教育の学園規模での共通教育化に向けた検討を行った。データ分析実践プログラムを履修証明プログラムとして社会人に開放するとともに、修了学生に対して履修証明書を交付した。 2 ICT 活用教育の活性化に向け、生成 AI に関する研修会を開催した。ICT 活用教育に関する学生・教職員アンケートを実施した。 3 WG を中心として、設置校・学部を横断する教育（リベラルアーツ教育、文理横断教育）の導入に向けた検討を行った。			
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果		
	1 本学園における AI、数理、データサイエンス教育の「一部教育内容の共通教育化」や「データ分析実践プログラム」の実施状況（基幹教育センター議事録）	1 基幹教育センター議事録（第5、6、7回）、本学 Web サイト内のデータ分析実践プログラムページ（ <a href="https://www.aomoricgu.ac.jp/visitor/general/1610">https://www.aomoricgu.ac.jp/visitor/general/1610</a> ）		
	2 ICT を活用した教育の情報発信の状況（基幹教育センター議事録および会議資料）	2 生成 AI に関する研修会資料、ICT 活用教育に関する学生・教職員アンケート、基幹教育センター議事録		
	3 リベラルアーツ導入に向けたカリキュラム案の策定状況（基幹教育センター議事録および会議資料）	3 基幹教育センター議事録（第1、3、4、6、7、8回）、リベラルアーツ教育に関する提案書他		
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった
	事業目標 1	○		
	事業目標 2			○

	事業目標3	○			
評価理由	<p>事業目標1：データサイエンス教育の学園共通教育化に向けて検討した。「データ分析実践プログラム」を看護学部の学生、社会人にも開放し、実施した。</p> <p>事業目標2：教育現場でのICT活用に向けた情報収集（アンケート）にとどまり提案まで行えなかった。</p> <p>事業目標3：WGを中心として学園規模でのリベラルアーツ教育導入に向けたカリキュラム案を作成した。</p>				
(Action)改善	<p>事業目標1：「データ分析実践プログラム」への社会人等、受け入れに向けた環境整備を行う。</p> <p>事業目標2：ICTを活用した教育についての発信を行う。</p> <p>事業目標3：英語教育等共通化に向けて継続課題の検討を行う。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：教学マネジメント委員会

<b>(Plan) 事業 目 標</b>	本学における教学に関する全学的な方針の策定、検証、評価等を行い、教学マネジメントサイクルを円滑に運用することを目的とする。 1 3つのポリシーとそれに基づく教育内容・実施体制の定期的な点検 2 学修成果の把握・可視化の方法の策定と、定期的な点検 3 教学マネジメントを支える基盤（FD/SD、IR等）の着実な実施 4 情報公表方針に基づいた情報公表の実施 5 「Society 5.0」の実現に向けた特色ある教育研究を推進する体制の構築	
<b>事業 計 画</b>	1-1 3つのポリシーを踏まえた本学の取組の適切性の検証 2-1 学修成果の可視化ツール（学修ポートフォリオ、ディプロマサプリメント等）の策定と活用 3-1 「望まれる教員像」に基づく体系的なFD/SD活動の検証 -2 IRを活用した情報分析による点検・評価と活用 4-1 情報公表状況の検証 5-1 私立大学等改革総合支援事業タイプ1への対応	
<b>(Do) 実 施</b>	1-1 3ポリシーを踏まえた取組の適切性について点検・評価を行い、教授会にて報告した。 2-1 ディプロマサプリメントを策定し運用を開始した。（R5年度卒業生へ配布） 3-1 FD委員会の検討結果を教学マネジメント委員会において確認した。 -2 アセスメントテスト、授業改善アンケートの結果に基づく教育課程の検証をおこなった。 4-1 アセスメントプランに基づきアセスメント報告書による検証をおこなった。 5-1 私立大学等改革総合支援事業、教育の質にかかる客観的指標の状況を確認し申請した。結果はタイプ1、タイプ3（地域連携型、プラットフォーム型）に選定された※申請したものはすべて選定	
<b>(Check) 点 検</b>	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 3ポリシーに基づく点検結果	1-1 令和4年度第12回教学マネジメント委員会議事録、経営法学部第2回教授会（5.10）・看護学部第2回教授会資料（5.17）※年度をまたいでの業務となるので、昨年度の点検結果を記載している。
	2-1 学修成果可視化の状況（委員会議事録、学修成果可視化ツール）	2-1 第9回教学マネジメント委員会議事録、ディプロマサプリメント様式

	3-1 FD/SD 実施状況（委員会議事録、2024 年度目標、FD 実施報告書） - 2 IR 活用状況（委員会議事録、IR 活用状況一覧）	3-1 第10回教学マネジメント委員会議事録（体系的FDの方針確認）、FD 実施報告書 - 2 令和4年度第12回委員会議事録（3月29日）			
	4-1 情報公表状況	4-1 アセスメント報告書			
	5-1 私立大学等改革総合支援事業採択状況	5-1 第5回教学マネジメント委員会議事録（9.19）			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2			○	
	事業目標3		○		
	事業目標4			○	
	事業目標5		○		
評 価 理 由	<p>事業目標1：3ポリシーについて、関連する資料に基づいて点検した結果、DPに関連した課題を確認し教授会に報告した。</p> <p>事業目標2：ディプロマサプリメントの策定と運用を実施した。学修ポートフォリオは次年度の活用を目指して検討を継続。</p> <p>事業目標3：FD委員会における検討結果を確認した。IR情報の分析結果を教授会に報告した。</p> <p>事業目標4：アセスメントプランに基づいてアセスメント報告書を作成した。検証結果から課題を抽出し、課題対応計画を作成したが、一部は次年度実施予定となった。</p> <p>事業目標5：私立大学等改革総合支援事業、教育の質にかかる客観的指標の回答状況を確認した。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標1：3ポリシーの検証を実施する。</p> <p>事業目標2：ディプロマサプリメントの検証と学修ポートフォリオの導入・活用を実施する。</p> <p>事業目標3：FD委員会、IR推進会議との連携を強化し、分析結果や課題の学内共有と対応を確実に実施する。</p> <p>事業目標4：アセスメントプランの見直しを実施する。アセスメントに基づく課題への対応を確実に実施する。</p> <p>事業目標5：私立大学等改革総合支援事業タイプ1の採択を目指した取組を強化する。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：自己点検・評価委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目標	本学が自らの責任で教育研究活動の点検・評価を行い、その結果をもとに実施する改善・改革を通して本学の教育研究活動の質を保証する体制を整え、その体制が円滑に機能することを目的とする。 1 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有 2 IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析による教育研究活動の質保証 3 教育研究の向上につながる実質的な教員実績評価の実施と、評価結果の公表と活用（中期計画）	
<b>事業 計画</b>	1-1 アセスメントプランに基づくアセスメント報告書の作成と公表 -2 事業活動PDCA サイクルシートの公表 -3 認証評価への対応 2-1 IR データの学内共有と活用 3-1 教員活動報告書による自己点検・評価を実施し、評価法の改善 -2 教育研究の向上につながる評価結果の活用	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 令和4年度アセスメント報告書をHPに掲載した。 -2 事業活動PDCA サイクルシートをHPに掲載した。 -3 自己点検評価書作成し、認証評価訪問調査に対応した。 2-1 アセスメントテスト、従業改善アンケートの結果を分析し、教授会に報告した。 3-1 教員活動報告書による評価を実施し、結果に基づき、次年度の評価法を検討した。 -2 教員活動報告書による評価結果に基づき、次年度の個人研究費の特別配分を決定した。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 アセスメント報告書とその公表状況	1-1 HP「教職員専用サイト、アセスメント報告書」
	2-1 必要調査・データの協議状況（委員会議事録、必要データ一覧）	2-1 経営法学部第2回教授会（5.10）・看護学部第2回教授会資料（5.17）
	3-1 教員活動報告の実施および公表状況（教授会議事録） -2 教員実績評価の活用方法検討状況（委員会議事録、教員実績評価細則）	3-1 第10回委員会議事録、第11回経営法学部・看護学部教授会資料 -2 第10回委員会議事録、教員実績評価細則

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
評 価 理 由	<p>事業目標 1：アセスメントプランによるアセスメント報告書をまとめ、それに基づいて改善計画を抽出し実施した。</p> <p>事業目標 2：アセスメントテストおよび授業改善アンケート結果を分析し、教授会で報告した。</p> <p>事業目標 3：教員活動評価を実施し、評価結果に基づいて個人研究費の配分を行った。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：自己点検評価書の作成・公表、事業活動 PDCA サイクルシートのとりまとめを確実に実施する。</p> <p>事業目標 2：IR データを更新し、活用を図る。</p> <p>事業目標 3：教員実績評価方法および活用方法を見直す。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：学務委員会（経営法学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	1 学生によるニーズや、時代の変化を踏まえた学修環境の検証と整備を行う。 2 修正された3つのポリシーを踏まえた教育の質保証を目指す。 3 特別養成プログラムを着実に実施する。 4 通常の業務の迅速化を図り、それ以外の課題解決や突発的に発生する業務にも対応できる体制を整える。 5 学生活動の支援を行う。	
<b>事業 計 画</b>	1 授業ごとのクラスサイズが教育効果を十分にあげられる人数となっているかなど、学修環境についての検証を行う。 2-1 教育の質と学修成果の水準の保証を目的とした「成績評価のガイドライン」の浸透に取組み、学年ごとの成績分布の分析を通して学生層や学年ごとの変化を把握し、問題の解消に向けた対策を実施する。 -2 新カリキュラムマップに適応したシラバス作成を促し、シラバス点検の体制を確立する。 -3 学生の自発的な学びを促す目標管理について、カリキュラム検討委員会との連携のもとで検討、実施する。 3 多様な学生層に対応した特別プログラム「グローバル人材養成プログラム」や「データ分析実践プログラム」の実施に向けた支援を行う。 4 通常の業務の迅速を果たし緊急対応に応じられるような態勢を整える。 5 学友会の活動を支援する。	
<b>(Do)</b> 実 施	1-1 感染症対策による履修者数の制限が解かれたことにより、特に語学の授業での受講者数の偏りを確認した。偏りの大きな授業にはTAを充てた。 2-1 学部の方針により、前学期の科目ごとの成績分布を共有し、2年続けて大きな偏りのある科目の担当者には学部から注意があることを確認した。 -2 シラバス作成要領およびチェックシートを新規に作成した。令和5年度のシラバスチェックを行う体制を構築した。 -3 1年生を対象として、探究の基礎担当教員の協力の元、初年次の目標管理を行った。 3 「グローバル人材養成プログラム」および「データ分析実践プログラム」の実施支援を行った。 4 後学期の科目担当者変更に対し、迅速な対応を果たした。大学からの呼びかけに対して反応が鈍い2年生に対し、次年度の専門演習Ⅱのゼミ選択を彼らが接続しやすいようスケジュール等を修正した。 5 学生の自治活動や学園祭実施に向けた支援を行った。	
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 学習環境の整備状況（履修者名簿）	1-1 学務委員会議事要録

	2-1 「成績評価のガイドライン」の周知、成績分布の分析 (教授会資料、ガイダンス資料) - 2 シラバス点検の状況 (教授会資料、学務委員会議事録) - 3 1年生の目標設定 (教授会資料、ガイダンス資料)	2-1 学務委員会議事要録 - 2 学務委員会議事要録 - 3 学務委員会議事要録			
	3 各種プログラムの実施状況 (教授会資料、学務委員会議事録)	3 学務委員会議事要録			
	4 学生層の変化の把握と対応状況 (教授会資料、学務委員会議事録)	4 学務委員会議事要録			
	5 学友会の活動状況 (教授会資料、学務委員会議事録)	5 学務委員会議事要録			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5		○		
評価理由	<p>事業目標 1 : 「語学系の数科目での受講者数の大幅増」「秋入学者向け必修科目の受講者減」を確認し、次年度のに向けた改善策を検討した。</p> <p>事業目標 2 : シラバスの作成ガイドラインを作成し、学務委員を中心としたチェック体制を構築した。 1年生を対象とした「目標管理シート」作成及ゼミ担当教員と連携したシートを利用した個別面談を行った。</p> <p>事業目標 3 : 各種プログラム実行に向け、必要に応じて支援できる体制を取った。</p> <p>事業目標 4 : 突発的に発生した業務に対し迅速に対応した。2年生の状況を見極め、専門演習Ⅱのゼミ選考のスケジュールを前倒しした。</p> <p>事業目標 5 : 3、4年生不在の学友会の自治活動を支援した</p>				
(Action) 改善	<p>事業目標 1 : 語学系科目の受講者数の調整や TA の採用に向けた検討</p> <p>事業目標 2 : シラバスチェック体制およびシラバス内容の充実に向けた検討</p> <p>事業目標 3 : 各種プログラム担当委員会との連携強化</p> <p>事業目標 4 : 学年ごとまたは学生層ごとの変化をキャッチする体制強化</p> <p>事業目標 5 : 学友会のリーダー育成と新入生リクルートに向けた支援</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：学務委員会（看護学部・別科助産専攻）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	<p>1. 学修活動の保証のための自律的な実施と整備</p> <p>2. 内部質保証のための学習成果の可視化と確立</p>
<b>事業 計 画</b>	<p>1-1 学事暦・カリキュラムの円滑・効率的な点検と実施</p> <p>  -2 科目（講義・演習・実習）・定期試験・選抜試験等の調整（学内外含む）と実施</p> <p>  -3 学生の主体的活動（学友会、海外留学等）の支援</p> <p>  -4 学生の健康管理及び感染予防の実施</p> <p>  -5 ICT 活用教育の実施に向けて関連部署との連携</p> <p>  -6 教育効果を踏まえた学生数・教室配置</p> <p>2-1 GPS アカデミックの実施（1年次・3年次）</p> <p>  -2 ディプロマサプリメント（学修成果証明書）策定に向けて関連部署との連携</p> <p>  -3 「成績評価ガイドライン」の周知確認と成績分布の把握</p>
<b>(Do)</b> 実 施	<p>1-1 学内行事等については学事暦に則り、カリキュラム（旧・新）については各科目教員・関連部署と調整・連携しながら実施した。シラバス作成の手引きを、FD 研修会（12月13日実施）後に見直し、PDFにて配信した。退学願については継続検討中である。</p> <p>  -2 計画通り科目・定期試験が実施できた。Covid19が5類感染症に移行し、感染に関連した学生対応は減少した。しかし、後学期にインフルエンザにより自宅待機となった学生に対しては、欠席配慮としてオンライン講義等に対応した。臨地実習では、施設内でのCovid19の発生状況に応じて、一部学内実習となった科目もあった。保健師教育課程選抜試験については、選抜実施要項を基に適正に選抜した。</p> <p>  -3 海外留学に際して学生の諸状況（渡航期間と定期試験追再試日程の重複）について、チェックリストに基づき対応した。</p> <p>  -4 始業時・入学時の健康診断を滞りなく実施した。Covid19が5類感染症に移行したことにより、学内におけるマスク着用は任意としたが、実習ではこれまで通りの感染予防対策を継続して実施した。看護学実習に向けて小児感染症予防接種・B型肝炎ワクチンの接種・インフルエンザ予防接種の勧奨、履歴の管理を行った。</p> <p>  -5 新入生ガイダンスの日程に、基幹教育センターと連携してPCガイダンス（office365のインストール、ポータルサイトの活用等）を取り入れた。Teamsにおいて各科目のチームコードを作成し、連絡・課題提示等に活用した。</p> <p>  -6 学生数を踏まえ適切な教室配置を行った。必要時、複数教室を使用して講義等を実施した。</p> <p>2-1 1年生は4～5月、3年生は1月にGPSアカデミックを実施した。10月に報告会（オンライン、1年生の結果）を実施した。</p>

	<p>－2 GPAの可視化に向けた分析をIRに依頼し、結果を委員会で共有した。ディプロマサプリメントの作成に向けて、4年生を対象に学修成果（課外活動含む）の調査を実施した。</p> <p>－3 「成績評価ガイドライン」に基づき、看護専門科目（1～4年次）成績分布を委員会で確認した。</p>				
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	<p>1-1 学事暦・カリキュラムの実施状況（学事関連資料、委員会議事録等）</p> <p>－2 時間割・試験運営状況（学事関連資料、委員会議事録等）</p> <p>－3 学友会、海外留学支援状況（委員会議事録、関連部署記録）</p> <p>－4 健康管理及び感染予防実施状況（学事関連資料、関連部署記録、委員会議事録等）</p> <p>－5 ICT活用教育実施状況（ガイダンス資料、委員会議事録等）</p> <p>－6 学生・教室配置状況（学事関連資料、委員会議事録等）</p>		<p>1-1 第1回～11回学務委員会議事録、新シラバス作成の手引き</p> <p>－2 前後学期時間割・定期試験日程・定期試験実施要項・保健師教育課程選抜実施要項</p> <p>－3 第8～9回第学務委員会議事録、海外留学チェックリスト、第10～11回教授会資料</p> <p>－4 健康診断結果、小児感染症等接種済証</p> <p>－5 新入生ガイダンススケジュール、各科目Teamsおよびチームコード</p> <p>－6 前後学期時間割</p>		
	<p>2-1 GPSアカデミックの実施（1年次・3年次）状況（委員会議事録、学科会議資料、報告会資料）</p> <p>－2 ディプロマサプリメントの検討状況（教学マネジメント委員会・カリキュラム検討委員会議事録、委員会議事録等）</p> <p>－3 成績分布状況（各科目成績分布、委員会議事録）</p>		<p>2-1 GPSアカデミックの実施（1年次・3年次）状況、（看護学科会議議事録、報告会資料）</p> <p>－2 第4回委員会議事録、ディプロマサプリメントの検討状況（教学マネジメント委員会議事録、4年生調査用Forms、集計Excelデータ）</p> <p>－3 成績分布状況（各科目成績分布、委員会議事録）</p>		
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
<b>評 価 理 由</b>	事業目標1・2ともに事業計画に基づき実施できたが、目標1では組織的なシラバスチェック（認証評価参考意見）、目標2では学修成果の活用が今後の課題となった。				
<b>(Action)</b> 改 善	組織的なシラバスチェックについては両学部学務委員会で実現可能な方法を検討し実施する。学修成果の活用については、関連部署と連携して対応していく。				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報委員会（経営法学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	<p>1. 入学定員に沿った志願者数増加に向けた入試制度の検討と広報活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者動向調査を進めるとともに、受験者にとって魅力的な入学試験制度を設計する（青森田中学園中期経営計画V-1. ①）。</li> <li>・参加対象者に応じた広報ツールおよび実施方式（オンライン・対面）を選択し、実施する（青森田中学園中期経営計画V-1. ②）。</li> </ul> <p>2. 高大連携委員会と連携して情報収集、各種制度のPRを行う（青森田中学園中期経営計画V-2.）。</p> <p>3. 大学・学部における多様な入学生の受け入れ体制作りに向けた検討内容に沿って、必要に応じた入試制度の検討と広報を実施する（青森田中学園中期経営計画V-3.）。</p>	
<b>事業 計 画</b>	<p>1-1 志願者数の増加（前年度比）を目指す。</p> <p>  -2 令和6年度入試制度変更点について、オープンキャンパスやオンラインを活用した広報活動を行う。また、令和7年度入試制度についても、委員会ワーキングでの検討を進め、令和5年度前期での予告公表を目指す。</p> <p>2-1 高大連携委員会において検討された内容を入試広報委員会で共有した上で、高校側に広報する。</p> <p>3-1 大学・学部における検討内容を共有し、入試制度として導入が必要な場合には入試制度の検討と広報を行う。</p>	
<b>(Do)</b> 実 施	<p>1-1 年度終了後に出願者数を集計し、下記のようになった。</p> <p style="padding-left: 40px;">出願者数：本年度-201名（日本人-191名、留学生10名）</p> <p style="padding-left: 40px;">  昨年度-270名（日本人-263名、留学生7名）</p> <p style="padding-left: 40px;">入学者数：本年度-147名（日本人-142名、留学生5名）</p> <p style="padding-left: 40px;">  昨年度-179名（日本人-173名、留学生6名）</p> <p>  -2 令和6年度入試制度変更点について、オンラインにて周知。OP等でも説明。各高校にパンフレットと共に案内。</p> <p>2-1 協定校との連携事項について、学生募集に繋げるように入試広報委員会と共有している。</p> <p>3-1 入学試験委員会にて検討された経済支援制度実施次期の拡充および専攻科入学試験の追加実施について広報活動を行った。</p>	
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	<p>1-1 志願者数状況（入学試験結果一覧）</p> <p>  -2 (1)OC、相談会、講座等の実施状況（実施要項、実施結果一覧、参加者アンケート）</p> <p>      (2) ワーキングでの検討状況（打合せ資料、教授会資料、HP掲載原稿）</p>	<p>1-1 出願者数：201名（前年-69名）、入学者数：147名（前年-32名）</p> <p>  -2 (1)・OC実施要領:経営法学部入試広報委員会資料(第1~4回)</p> <p>      ・OC実施結果：OC実施要領:経営法学部入試広報委員会資料(第2,4,5回)</p> <p>      ・各種相談会結果:毎回の委員会資料</p> <p>      (2)経営法学部入試広報委員会資料(令和4年度第11回、令和5年度第9</p>

				回)、HP 掲載原稿(6月23日付公表)	
	2-1 高大連携委員会および入試広報委員会との情報共有の状況。広報活動における状況。(入試広報委員会議事要録等)			2-1 高大連携委員会と入試広報委員会と共通する高校の本学訪問等の事項はそのつど両委員会において報告。	
	3-1 情報共有の状況(打合せ資料)			3-1 経営法学部入試広報委員会資料(第6回~8回) 「社会人のための進学説明会」の『データ分析実践プログラム』実施	
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		1-2 ○		1-1 ○
	事業目標2		○		
	事業目標3			○	
評価理由	<p>事業目標1：1-1 出願者数、入学者数ともに昨年より減少した。</p> <p>1-2 総合型入試を高校生の探究の学習に合わせて受験しやすくした。高校生は携帯からオンラインによる学園情報を得やすくした。</p> <p>事業目標2：入試広報を広めるべく高大連携と情報共有し、入試につながるよう高校生に情報提供している。</p> <p>事業目標3：「社会人のための進学説明会」の『データ分析実践プログラム』を実施したが開催時間帯が社会人としては参加しづらいため参加者が少なかった。</p>				
(Action) 改善	<p>事業目標1：高校生の探求の学習による志願者増の周知活動を行う。(総合型の周知)</p> <p>事業目標2：高大連携協定校はもとより入試関連情報を高大連携委員会と情報共有を行う。</p> <p>事業目標3：「社会人のための進学説明会」の参加時間検討。その他多様な入学生の受け入れについて大学・学部と共同で検討する。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：入試広報委員会（看護学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	<p>入学志願者増加（前年度比）につながる入試広報活動全般の企画、運営、評価、改善を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部の入試の検証と見直し（中期計画 5-1①）</li> <li>2. 入試広報活動の企画、運営と改善</li> <li>3. 高校生とその保護者、社会人への情報発信</li> <li>4. 看護師人材の早期創出（中期計画 5-1⑤）</li> <li>5. 多様な学生の受け入れに向けた調査、企画の提案（中期計画 5-3）</li> </ol>
<b>事業 計 画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 看護系大学の入試動向の調査と本学入試の検証（入試広報センター・高大連携委員会・看護学部と協同）</li> <li>  - 2 入試形態の検討</li> <li>2-1 本学看護学部の魅力が伝わるオープンキャンパスの企画、運営、評価、改善</li> <li>  - 2 対面型・ハイブリッド型の入試広報活動の実施（OC・高校訪問・説明会・体験授業など）</li> <li>  - 3 保護者を対象とした新たな入試広報活動の企画・実施</li> <li>3-1 HPのWebコンテンツの充実、SNSの活用による情報発信（特待生の周知・OC企画内容など）</li> <li>  - 2 保護者を対象とした情報発信</li> <li>  - 3 社会人を対象とした情報発信</li> <li>4-1 中学生から高校2年生を対象としたオンライン個別相談会等のイベントの実施</li> <li>5-1 多様な学生のニーズ調査、受け入れに向けた企画案の作成（入試広報センター・看護学部と協同）</li> </ol>
<b>(Do)</b> 実 施	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 企画部 IR 担当ならびに学園広報室の協力のもと、入学者数と出身高校について近年の動向を検証した。入試区分別に、入学後成績・卒業時成績や、GPS アカデミックの結果との相関、卒業後の進路状況も検証した。これらは青森県 18 歳人口の推移等とともに学科教員と共有した。</li> <li>  - 2 総合型選抜試験を導入し、センター試験利用第 3 期選抜試験を追加した。</li> <li>2-1 オープンキャンパスを 3 回実施した。オープンキャンパスにキッチンカーが出店し、参加者には引換券を無料配布した。第 2 回・第 3 回オープンキャンパスでは参加者に入学検定試験料の減免特典を付与した。</li> <li>  - 2 高校教員対象説明会は会場での対面に加えて、当日参加できない高校教員へのオンデマンド配信を行った。在学生に、出身高校教員の来校予定を伝えて交流の場を設けることで、高校教員の満足度と本学への親近感を醸成した。志願実績・在籍学生状況を踏まえた訪問リストに基づいて、センター職員が高校を訪問して情報を提示した。</li> </ol>

	高校や看護協会が主催する進学相談会・ガイダンスに出席する教員の調整・依頼を行った。 - 3 オープンキャンパスでは保護者対象の説明会を開催し、これとは別に保護者向けの相談ブースを設置し教員が対応した。				
	3-1 学校案内を作成し、看護学部 HP を1回更新して、看護学部の情報発信を行った。 - 2 オープンキャンパスにて保護者対象の説明会を開催した。 - 3 社会人対象「進学相談会」の広報チラシを市内4万世帯へポスティングしてPRした。				
	4-1 高校生を対象とした「オンライン個別相談」を実施した。 小学生から中学生を対象とした「ミライのおしごと体験イベント」を短期大学と合同で3月に実施予定である。				
	5-1 入学者の出身高校などをもとに遠隔地からの本学入学へのニーズを検討した。 経済状況等をふまえた多様な学生の受け入れについて調査・企画案を検討予定である。				
<b>(Check)</b> <b>点 検</b>	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 入試動向の調査状況、本学入試結果・志願者の分析状況（議事録） - 2 入試形態の検討状況（議事録）		1-1 看護学部入試妥当性検証資料 大学別入学者調査一覧・看護学部志願者数一覧 11月学科会議資料（県内受験者数の予測） - 2 今年度から導入した入試形態について、今後点検予定である。		
	2-1 オープンキャンパスの実施状況（参加者アンケート、議事録） - 2 対面型・ハイブリット型入試広報活動の実施状況（参加者アンケート、議事録） - 3 保護者を対象とした企画の実施状況（参加者アンケート、議事録）		2-1 第1～5回委員会議事録、実施状況報告  - 2 第1～9回委員会議事録  - 3 第1～5回委員会議事録		
	3-1 WebコンテンツとSNSの活用状況（実施実績、議事録） - 2 保護者に特化した情報の発信状況（実施実績、議事録） - 3 社会人に特化した情報の発信状況（実施実績、議事録）		3-1 第1～9回委員会議事録 - 2 第1～9回委員会議事録 - 3 第5回委員会議事録		
	4-1 中高生対象イベントの実施状況（実施実績、議事録）		4-1 第1～9回委員会議事録		
	5-1 多様な学生のニーズの調査・企画案作成状況（議事録）		5-1 大学別入学者調査一覧・看護学部志願者数一覧 第10回委員会議事録（予定）		
	<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった

	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
	事業目標 5			○	
<b>評 価 理 由</b>	<p>事業目標 1：入学者数と出身高校について近年の動向を検証し、青森県内 18 歳人口の推移とともに学部教員と共有できた。</p> <p>事業目標 1：新たな入学形態（総合型選抜・共通テスト利用 3 期）を設け、実施できた。</p> <p>事業目標 2：看護学部で 3 回実施したオープンキャンパスには、8 月の「オープンキャンパスの歩き方・ミライセレクト」の看護関連参加者 5 名を含め、累計 140 名の高校生と 47 名の同伴者の参加があった。1 回実施した別科助産専攻オープンキャンパスには 22 名の参加があった。アンケートによると大学の雰囲気、教員や学生の優しさ、色々な話が直接聞ける、模擬講義、看護体験等が高評価であった。</p> <p>事業目標 2：高校訪問や教員説明会、教員による進学相談会等への出席を通して高校生・保護者への情報発信を行うことができた。</p> <p>事業目標 2：新たに保護者対象の企画を実施できた。</p> <p>事業目標 3：大学案内の作成、看護学部 HP の更新を行うことができた。</p> <p>事業目標 3：社会人対象「進学相談会」の広報チラシを配布し社会人への情報発信を行った。</p> <p>事業目標 4：高校生を対象とした「オンライン個別相談」を企画・実施できた。</p> <p>事業目標 4：小学生から中学生を対象とした「未来のおしごと体験イベント」を実施予定である。</p> <p>事業目標 5：県外を含む遠隔地からのニーズについて調査した。その他多様性について、検討したものの今年度中の結論に至らなかった。</p>				
<b>(Action) 改 善</b>	<p>事業目標 1：青森県内の動向に加え県外の看護系大学受験者の動向を調査する。</p> <p>事業目標 2：学園横断フリー参加型のオープンキャンパスに向けた新たな企画を検討する。</p> <p>事業目標 2：IR との協働による在学生の満足度とニーズの調査をもとに、本学の PR ポイントを高校生に向けて発信する。</p> <p>事業目標 3：保護者の要望を踏まえて情報発信内容を検討する。</p> <p>事業目標 3：社会人を対象とした相談会の情報発信を企画する。遠方からの参加も想定しオンラインと来場との併用開催を継続する。</p> <p>事業目標 4：小学生から中学生を対象とした企画をニーズに合わせて改善しながら継続する。</p> <p>事業目標 5：看護系専門学校や男子学生など、これまで 4 年制看護系大学への志向が少ないと考えられる受験生のニーズを調査する。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：キャリア支援委員会（経営法学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目標	1. 高水準の就職率維持。 2. 留学生に対する就職支援活動の強化。	
<b>事業 計画</b>	1-1 年次別に明確な目的を定めたキャリアプログラムを策定し、学生の就職意識を高める環境を整備する。 -2 単位制インターンシップ科目と連携しながら、インターンシップへの積極的対応を促進する。 -3 個別相談への対応体制を強化する。 -4 令和6年度新4年生対象の「業界・企業研究セミナー」「学内企業就職セミナー」を実施する。 -5 キャリアプランニング、インターンシップの実施体制の整備・検証を行う。	
	2-1 留学生を対象とした就職活動支援特別プログラムを実施する。 -2 日本国内で就職した本学留学生OBとの対話プログラムを継続実施する。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 キャリアプログラムの内容、外部講師の人選等に工夫を凝らし、明確な目的に向けたプログラムを組成し、実施した。 -2 単位制インターンシップの受講意欲を高めることに重点を置き、積極的対応を促進した。 -3 キャリア支援センターでの個別相談対応の向上に注力した。 -4 「業界・企業研究セミナー」を令和5年10月6日に実施した。「学内企業就職セミナー」を令和6年3月1日に実施した。 -5 キャリアプランニング、インターンシップについては、毎月のキャリア支援委員会で都度、1か月分の実施状況を検証している。	
	2-1 授業外で留学生向けのキャリア支援プログラムを実施した。また、留学生限定のオンライン学内企業セミナーを令和6年3月18日に実施した。 -2 令和5年7月7日に「日本で働く卒業生との交流会」を実施した。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 キャリアプログラムの策定・実施状況（委員会議事録） -2 キャリア支援センター経由のインターンシップ参加状況（インターンシップ参加者数、単位型含む） -3 キャリア支援センターの利用状況（利用者数、内容）	1-1 キャリアプランニングⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、および留学生の授業外プログラムは、すべて予定通りに完結した。（委員会議事録） -2 単位制インターンシップは、20名が修了。（委員会議事録） -3 令和6年3月末現在、経営法学部の利用状況は総数が436件、内訳は面接98、履歴書添削106、求人票閲覧4、その他228、となった。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 4 セミナーの実施状況とその成果（セミナー実施状況、最終就職率）</li> <li>- 5 実施体制の検証結果（委員会議事録）</li> </ul>	<p style="text-align: center;">（委員会議事録）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 4 10月の流通団地協議会の協力による合同企業セミナーは、15社で実施、3月の「学内企業セミナー」は、50社を招いて実施された。令和6年3月末日現在の最終就職内定率は94.9%となった。（委員会議事録）</li> <li>- 5 1年生の後学期選択科目キャリアIIは、プログラムと講師を刷新した効果が見られた。2年生前学期選択の座学と後学期選択のワークショップは、流通系のテーマで学生の経験値を引き上げてきたが、来年度は担当講師の都合等もあり、大幅に見直しをする。3年生の実践型プログラムも外部講師の入れ替え等を随時検討している。（委員会議事録）</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 留学生支援プログラムの実施状況（実施状況、参加率）</li> <li>- 2 対話プログラムの実施状況（実施状況、受講者フィードバック）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 授業外8コマのプログラムはすべて完結した。履修者7名中出席5~6名と参加率は高かった。（委員会議事録）</li> <li>- 2 対話プログラムは例年同様、盛り上がりが見られた。（委員会議事録）</li> </ul>			
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
<b>評 価 理 由</b>	<p>事業目標1：例年に劣らない極めて高水準の就職率を維持した。</p> <p>事業目標2：授業ではないプログラムにもかかわらず、参加率の向上に努め、留学生のニーズを見ながら進めることができた。</p>				
<b>(Action) 改 善</b>	<p>事業目標1：高水準の就職率を堅持する。</p> <p>事業目標2：より、留学生のニーズを掘り起こしながらサポートを強化する。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：キャリア支援委員会（看護学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	1 保健医療に貢献できる人材を育成するためのキャリア支援 2 学生自らが納得できる進路を選択するための進路支援 3 学生1人ひとりに合わせた就職・進学活動支援	
<b>事業</b> <b>計 画</b>	1-1 専門職として長期的な視点で自身のキャリア形成を考えられるようなキャリア支援を実施する。 2-1 就職・進学情報に関する情報収集を行い、学生に発信する。 -2 学生1人ひとりの進路希望を把握する。 3-1 内定率100%を目指し、学生が主体的に就職・進学活動ができるように支援する。 -2 就職活動が停滞している学生を早期に発見し、支援を行う。	
<b>(Do)</b> 実 施	1-1 各学年のキャリア支援計画に沿って、キャリア支援セミナーなどを実施した。 キャリアプランニングの授業では、学生の自己理解、働く意義や目標設定を組み込んだ。 2-1 就職・進学情報に関する情報収集を行い、Teamsを活用し学生に発信した。 -2 学年アドバイザーと連携し、学生1人ひとりの進路希望を把握した。 3-1 キャリア支援セミナーの実施や個別相談を行い、学生が主体的に就職・進学活動ができるように支援した。 -2 内定状況を確認し、就職活動が停滞している学生の就職活動を支援した。	
<b>(Check)</b> 点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 キャリア支援の実施状況（セミナーのアンケート結果、卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果、卒業3年目の卒業生および就業先に対するアンケート結果）	1-1 キャリア支援セミナーのアンケート結果 卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果 卒業2・3年目の卒業生および就業先に対するアンケート結果
	2-1 情報発信に関する活用状況（2・3年次への活用状況アンケート結果、卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果） -2 進路希望状況（進路希望調査結果）	2-1 2・3年次への活用状況アンケート結果 卒業時のキャリア支援に関するアンケート結果 -2 進路希望調査結果
	3-1 キャリア支援セミナーの参加状況、キャリア支援アドバイザー・キャリア支援センターの利用状況（セミナーのアンケート結果、センター利用状況調査結果）	3-1 キャリア支援セミナーのアンケート結果 キャリア支援センター利用状況（議事録第1～9回目）

	-2 就職・進学希望者の進路状況（進路状況調査結果）		-2 進路状況結果（議事録第1～9回目）		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
評 価 理 由	<p>事業目標1：各学年のキャリア支援計画に沿って実施できた。            昨年度の卒業生および就業先に対するアンケート結果を参考にして、キャリアプランニングの授業内容を検討した。</p> <p>事業目標2：3年次に進路希望を調査し、就職・進学活動を支援することができた。            Teamsを活用しながら学生に情報を発信した。</p> <p>事業目標3：令和5年度1月17日現在98.86%の内定率である。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標1：学生1人ひとりが人生の将来設計ができるようキャリアプランニングの授業内容を検討する。</p> <p>事業目標2：2～4年次の学生のTeamsでの情報発信の活用状況を把握し、効果的な情報発信の仕方を検討する。</p> <p>事業目標3：内定状況を確認しながら、学生の就職・進学活動を行う。</p>				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：研究推進委員会

<p>(Plan) 事業 目標</p>	<p>1. 研究環境を整備充実する 2. 大学の特色となり得る研究を推進する 3. 科学研究費をはじめ各種外部資金の採択件数を増やす 4. 研究成果発信としての研究紀要を刊行する</p>	
<p>事業 計画</p>	<p>1-1 研究活動の活性化にむけた当委員会主催の研究会や研修会を実施する 2-1 本学の特色となりうる研究カテゴリーの検討と整理を行い、具体的な視点を複数提言する -2 研究カテゴリーに関連するテーマを明示し、本学教員の研究参画にむけた学内シンポジウムを開催する 3-1 科学研究費をはじめとした各種外部資金の研究助成の情報収集および情報提供を行う -2 「外部資金獲得講習会」を実施する -3 これまでの科研費応募件数の分析に基づき目標値を設定する -4 科研費調書の作成に向けたピアレビューの体制構築を行う 4-1 積極的な投稿を呼びかけ、適切な査読体制のもとに編集作業を実施する</p>	
<p>(Do) 実施</p>	<p>1-1 学術懇談会を計3回実施した。うち1回は、新たな試みとして「外部資金獲得に向けたよろず相談会」を実施した。 2-1 本学教員の研究テーマの傾向把握および過去の学術懇談会での報告を基に、本学の研究カテゴリーの検討と整理を行った。 -2 本学の特色となり得る研究テーマとして「青森県の地域課題解決」を抽出し、学部や専門分野を連携・発展させる学際的研究を提言するため学内シンポジウムを企画した。 3-1 助成金の情報を学内ポータルサイト「研究支援情報」に集約して提供した。 -2 「外部資金獲得に向けたよろず相談会」を、学術懇談会の一環として実施した。 -3 これまでの科研費応募件数の分析に基づき、今年度の応募件数目標値を前年度以上（12件以上）と設定した。 -4 過去に施行・実施していた「科研費研究計画調書閲覧制度」を再開したほか、科研費採択経験者による応募書類の添削や相談の機会として「外部資金獲得に向けたよろず相談会」を実施し、科研費申請の支援体制を構築した。 4-1 教授会等での投稿呼びかけや、原稿募集メール一斉送信を2度行った。予定どおり今年度末に刊行予定で、編集作業を鋭意進めている。</p>	
<p>(Check) 点検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>
<p>1-1</p>	<p>当委員会主催研究会・研修会の実施の実施状況（回数、開催概要、参加者によるアンケート結果）</p>	<p>1-1 学術懇談会（計3回：7/25、8/3、11/14）開催概要、アンケート結果</p>

	2-1 研究カテゴリーの抽出結果・提言状況（会議録・検討資料） - 2 学内シンポジウムの実施計画・実施状況（会議録・開催概要、参加者によるアンケート結果）	2-1 第7回委員会議事録 - 2 学術懇談会（計3回：7/25、8/3、11/14）開催概要、アンケート結果			
	3-1 情報提供の実施状況（研究助成および科研費種別の情報の学内ポータルサイト掲載記録） 3-2 「外部資金獲得講習会」の実施状況（回数、開催概要、参加者によるアンケート結果） - 3 目標値設定の実施状況（会議録、科研費応募件数） - 4 ピアレビュー体制の検討状況（会議録、実施状況）	3-1 対象の学内ポータルサイト掲載部分  - 2 第2回学術懇談会（外部資金獲得に向けたよろず相談会、8/3実施）の開催概要、アンケート結果 - 3 第3回委員会議事録、科研費応募件数12件（今年度目標値と同数） - 4 第2回～第4回委員会議事録、第2回学術懇談会（外部資金獲得に向けたよろず相談会、8/3実施）の開催概要、アンケート結果			
	4-1 紀要への投稿状況（会議録、投稿および掲載された論文数）	4-1 第1回・第2回研究紀要編集会議議事録、投稿数計12件（経営法学部8件、看護学部4件）、掲載決定計12件（昨年比+3件）。			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
評価理由	<p>事業目標1：計画通り学術懇談会を開催した</p> <p>事業目標2：学内教員へのヒアリングにより実情把握を行った。それに基づくシンポジウムは2月7日に開催した。</p> <p>事業計画3：第2回学術懇談会を外部資金獲得に向けたよろず相談会として実施した。科研費の応募件数は目標を維持した。</p> <p>事業計画4：投稿数および掲載決定件数は前年より3件増加した。</p>				
(Action) 改善	<p>事業目標1：学内教員の参加がやや少ない状況である。参加にむけた働きかけを強化する。</p> <p>事業目標2：現在の研究プロジェクトや派生する研究の可能性について、積極的に情報提示していく。</p> <p>事業計画3：本学の現状にあったピアレビュー体制を構築する。</p> <p>事業計画4：より投稿に結びつく査読体制等の整備を行う。</p>				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：研究倫理委員会

<p><b>(Plan)</b> 事業 目 標</p>	<p>研究の倫理的側面の審査を行い、研究の信頼性と公正性を確保することを目的とする。 1. 学園の倫理指針・規則に基づく教員等の研究倫理審査の厳正で円滑な運用 2. 看護学部学生研究倫理審査規則に基づく学生の倫理審査の適切な運用</p>	
<p>事業 計 画</p>	<p>1-1 教員等の研究倫理審査を規則に基づき適切に実施する。 - 2 研究倫理審査を円滑に運用するため、必要に応じて規則等を整備する。 - 3 新たに整備した規則等の運用状況を確認し、適切な研究倫理審査に活用できているか評価する。 2-1 看護学部学生研究倫理審査を規則に基づき適切に実施する。 - 2 看護学部と本委員会が連携しながら看護学部学生研究倫理審査を迅速に行う。 - 3 規則等の運用状況を確認し、適切な看護学部学生倫理審査に活用できているか評価する。</p>	
<p><b>(Do)</b> 実 施</p>	<p>1-1 教員等の研究倫理審査5件を倫理指針・規則に基づき適切に実施した。 - 2 研究倫理審査の円滑な運用ならびに研究倫理審査の客観性および信頼性を担保するため検討し、関係規則を整備した。 - 3 委員会における事業活動中間評価及び年度末評価により、令和4年度に改定した規則等の運用状況を確認し評価した。 2-1 看護学部学生研究倫理審査2件を規則に基づき適切に実施した。 - 2 看護学部と連携しながら看護学部学生研究倫理審査を迅速に実施した。 - 3 委員会における事業活動の中間及び年度末評価により、看護学部学生倫理審査の運用状況を確認し評価した。</p>	
<p><b>(Check)</b> 点 検</p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p> <p>1-1 教員の研究倫理審査の適切な実施状況 (研究倫理委員会議事録：倫理審査会発足、倫理審査日程決定、倫理審査申請件数および審査結果、提出された申請書類内容、審査結果記入票、審査結果通知後の手続き) - 2 研究倫理審査を円滑に運用するための規則等の整備状況 (研究倫理審査申請の手続き、研究倫理審査申請チェックリスト、研究倫理審査申請書、審査結果記入票) - 3 規則等の運用状況の確認および適切な研究倫理審査への活用状況</p>	<p>点検結果</p> <p>1-1 第3・4・5・6回研究倫理委員会議事録および資料 - 2 第1・8・9回研究倫理委員会議事要録 - 3 第8・9・10回研究倫理委員会議事録および倫理審査実施状況一覧、提出済申請書類</p>

	(研究倫理審査会運営要綱、研究倫理審査申請書、研究倫理審査申請チェックリスト、研究倫理審査申請フローチャート)				
	<p>2-1 看護学部学生倫理審査の適切な実施状況 (研究倫理委員会議事録：学生審査会委員の構成・倫理審査日程決定、倫理審査申請件数および審査結果、提出された申請書類内容)</p> <p>2-2 看護学部と本委員会との連携による看護学部学生研究倫理審査の迅速な実施状況 (学生審査会委員の構成、審査期間、審査結果通知後の手続き)</p> <p>2-3 新たに整備した規則等の運用状況の確認および適切な看護学部学生倫理審査への活用状況 (新たに整備した規則等：看護学部学生研究倫理審査申請フローチャート、看護学部学生研究倫理審査申請書、提出された申請書類内容)</p>		2-1 第2・3回研究倫理委員会議事録および資料	2-2 第2・3回研究倫理委員会議事録	2-3 第8・9・10回研究倫理委員会議事録および倫理審査実施状況一覧、提出済申請書類、学内ポータルサイト
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1		○		
	事業目標2		○		
評価理由	<p>事業目標1：教員の研究倫理審査は規則等に基づき適切に実施されている。さらに、今年度の運用状況から、新たに、研究倫理委員自身が関与する研究課題に係る倫理審査の客観性および信頼性の担保が課題として抽出されたため、規則等の整備検討を進め、次年度からの施行を予定している。</p> <p>事業目標2：看護学部学生倫理審査は規則等に基づき適切に実施されている。さらに、看護学部以外の学生（経営法学部学生・大学院生）等からの申請の可能性を想定し昨年度改正した規則についても、運用状況に問題は見られなかった。</p>				

<b>(Action)</b> <b>改善</b>	事業目標 1：研究倫理審査の客観性および信頼性を担保するため一部改正作業を行っている「研究倫理審査会運営要綱」を、次年度から施行し、その運用状況を確認しながら、必要に応じた規程等の見直しを行う。 事業目標 2：看護学部学生倫理審査の運用状況を確認しながら、必要に応じた規程等の見直しを行う。看護学部以外の学生等の倫理審査も、申請があれば、改正した規則に基づき適切に実施する。
------------------------------	--

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：地域社会活動委員会

<p>(Plan) 事業 目標</p>	<p>1. 本学が有する教育資源の豊かさを、地域社会に積極的にアピールする。 2. 協定を締結している団体等をはじめとして、各関係機関と連携・協働しながら、公開講座等の更なる充実を図る。</p>	
<p>事業 計画</p>	<p>1-1 本学教員による市町村や各種団体、高校等への出前講座を実施する。 -2 サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」を地域活動の場として提供する。 -3 “脳活いきいきプログラム”、“高校生向け公務員試験対策講座”、“防災士養成講座”等の公開講座及び講演会を開催する。 -4 “まちなかキャンパス講座”及び“留学生による語学講座”を実施し、本学が有する教育資源と研究成果を地域に周知、還元する。</p> <p>2-1 地域のゲストスピーカーによる公開講座（「暮らしと地域」）を中心とする講演会・講座を実施する。</p>	
<p>(Do) 実施</p>	<p>1-1 出前講座に係る実施内容の周知を早めたこと、及び本学の高大連携事業への積極的な取組により講座依頼数は目標値を上回った。 -2 地域活動の場として多くの団体がサテライトキャンパスを活用したことにより、利用者が昨年度と比較して30%ほど増加した。 -3 講演会、学習会の開催は5回に留まったが、参加者数においては総計457名で目標値を上回ることができた。 -4 計画した倍以上である34回の講座を開催した結果、予想を上回る延べ654名の方々に参加頂き、好評を博した。</p> <p>2-1 計画を超える12回の講座を実施したが、参加者数において目標値の10%程度の増加に留まった。</p>	
<p>(Check) 点検</p>	<p>計画段階の点検項目 ※括弧書きでエビデンス資料を記載</p> <p>1-1 出前講座の回数及び受講者数：講座数 20/受講者数 700 (実施記録)</p> <p>-2 地域活動、公開講座の実施回数及び利用者・参加者の数： 実施回数 50/人数 300 (実施記録)</p> <p>-3 講演会、学習会の開催回数及び参加者数：開催回数 15/参加者数 400 (実施記録)</p> <p>-4 国際交流関連講座、語学講座の実施回数及び受講者数：回数 15/受講者数 250 (実施記録)</p> <p>2-1 講演会・講座の実施回数及び参加者数：実施回数 10/参加者数 1500 (実施記録)</p>	<p>点検結果</p> <p>1-1 出前講座の回数及び受講者数：講座数 29/受講者数 2,073(実施記録)</p> <p>-2 地域活動、公開講座の実施回数及び利用者・参加者の数：実施回数 62/人数 526 (実施記録)</p> <p>-3 講演会、学習会の開催回数及び参加者数：開催回数 5/参加者数 457 (実施記録)</p> <p>-4 国際交流関連講座、語学講座の実施回数及び受講者数：回数 34/受講者数 654 (実施記録)</p> <p>2-1 講演会・講座の実施回数及び参加者数：実施回数 12/参加者数 1,647 (実施記録)</p>

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1	○			
	事業目標 2		○		
評 価 理 由	<p>事業目標 1：講演会・講座等の開催数及び参加者数が目標値を大幅に上回り、想定以上の成果を達成できたと判断できる。</p> <p>事業目標 2：講演会・講座の実施回数及び参加者数ともに、想定した数値より微増したことから目標を達成したものと判断できる。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：公開講座、講演会の企画運営の充実に努め、適時適切に周知を図る。</p> <p>事業目標 2：対面型及びオンライン配信による講座・講演会を開催し受講者の利便性を図るなど、より一層の充実に努める。</p>				

令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：FD 委員会

<p><b>(Plan)</b> 事業 目 標</p>	<p>学生の授業改善アンケート結果や様々な研修会の実施を通して、教員の教育活動等のさらなる改善・向上を図ることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の教育力向上を図るための教員像に基づいたFD・SD研修会（全学、学部別、学生）の企画・運営</li> <li>2. 学生と共に魅力ある授業作りのための学期途中・学期末授業改善アンケートの実施と結果の共有</li> <li>3. 授業に関する教員学生相互の理解を深めるための学生自由意見に対する教員コメントの実施と結果の共有</li> </ol>	
<p>事業 計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 教職員合同SD研修会を企画・運営し、評価を行う。</li> <li>-2 全学FD研修会を企画・運営し、評価を行う。</li> <li>-3 学部別FD研修会を企画・運営し、評価を行う。</li> <li>-4 学生FD座談会を企画・運営し、評価を行う。</li> <li>-5 FDネットワークつばさ関連事業への教職員・学生の参加・協力を促し、結果を報告する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 学期途中の授業改善アンケートを実施し、報告する。</li> <li>-2 学期末授業改善アンケートを実施し、回答率と結果を報告する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 授業改善アンケートの学生自由記述意見に対する教員コメント作成を依頼、回答率と教員コメントを公表する。</li> </ol>	
<p><b>(Do)</b> 実 施</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1 8/3「大学教職員の発展に資する心理的安全性の導入」をテーマにSD研修会を実施。</li> <li>-2 5/10「学修成果の可視化」、7/12「大学におけるポートフォリオ」、9/27「アクティブ・ラーニング」、12/13「シラバス作成について」、2024年2/7「可視化した学修成果を学生指導へ活用する 学習ポートフォリオ活用事例の紹介」をテーマにFD研修会を実施。</li> <li>-3 経営法学部は2/14「学部の特色について」、看護学部は2/14「近頃の看護学生の特徴と指導上の留意点」をテーマにFD研修会を実施。</li> <li>-4 学生FD座談会は2/5「授業改善アンケートの実施課題、シラバス・PC活用」をテーマに実施。</li> <li>-5 6/30第30回ネットワークつばさFD協議会・研修会、3/15第31回ネットワークつばさFD協議会・研修会に委員長オンライン参加、10月「週刊授業改善リレーエッセイ」に投稿、ワークショップ開催を学生に周知。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 前学期5/8～12、後学期10/23～27の期間に学期途中の授業改善アンケートを実施、結果を報告。</li> <li>-2 前学期6/12（看5/29）～8/2、後学期12/14（看11/13）～2/2（看2/20）の期間に、学期末授業改善アンケートを実施、学部別回答率と結果を報告。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 前学期の学生自由記述に対して、教員コメント作成を依頼、回答率と回答のあった教員コメントを10月以降3か月公開。後学期も同様に学生自由記述に対して教員コメント作成の依頼、回答のあった教員コメントを3/17より公開。</li> </ol>	
<p><b>(Check)</b></p>	<p>計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載</p>	<p>点検結果</p>

点 検	<p>1-1 SD 研修会の実施状況（企画書、委員会議事録、報告書、アンケート結果）</p> <p>- 2 全学 FD 研修会の実施状況（実施要項、委員会議事録、研修会資料、報告書・アンケート結果、2023 年度 FD 活動報告書）</p> <p>- 3 各学部 FD 研修会の実施状況（実施要項、委員会議事録、報告書・アンケート結果、2023 年度 FD 活動報告書） ※教員の研修会参加率は 1-1~3 延べで 100%</p> <p>- 4 学生 FD 座談会の実施状況（委員会議事録、報告書、2023 年度 FD 活動報告書）</p> <p>- 5 FD ネットワークつばさ協議会への参加状況（委員会議事録、2023 年度 FD 活動報告書）</p>			<p>1-1 SD 研修会実施要項、第 5 回（8/3）委員会議事録で報告書とアンケート結果を報告</p> <p>- 2 FD 研修会実施要項、第 2 回（5/22）委員会議事録で報告書とアンケート結果報告、第 4 回（7/20）委員会議事録で報告書とアンケート結果報告、第 7 回（10/19）委員会議事録で報告書とアンケート結果報告、第 10 回（1/19）委員会議事録で報告書とアンケート結果報告、第 11 回（2/21）委員会議事録で報告書報告。</p> <p>- 3 実施要項、第 11 回（2/21）委員会議事録で報告書報告。 ※SD/FD 研修会の教員参加は述べ回数で 100%（産休者除く）</p> <p>- 4 第 11 回（2/21）委員会議事録で報告書報告。</p> <p>- 5 第 30 回協議会参加について第 4 回（7/20）委員会議事録で報告書報告、第 31 回協議会参加については、FD 委員会 Teams 配信、2023 年 FD 活動報告書に掲載。</p>		
	<p>2-1 学期途中の授業改善アンケートの実施状況（委員会議事録）</p> <p>- 2 学期末授業改善アンケートの実施状況（委員会議事録、教員への依頼文、アンケート回答率と結果、2023 年度 FD 活動報告書）※学生のアンケート回答率 5 割以上</p>			<p>2-1 第 2 回（5/22）委員会議事録、第 8 回（11/16）委員会議事録で実施結果報告</p> <p>- 2 第 6 回（9/25）委員会議事録で前学期回収率と学部別結果の報告、第 11 回（2/21）委員会議事録で後学期回収率と学部別結果報告 ※学生の回答率：前学期 経法 39.8%、看護 36.6% 後学期 経法 38.5%、看護 40.6%</p>		
	<p>3-1 教員コメントの実施状況（委員会議事録、教員への依頼メール、コメント回答率、ポータルサイト掲示板、2023 年度 FD 活動報告書）※教員のコメント回答率 5 割以上</p>			<p>3-1 第 8 回（11/16）委員会議事録で教員コメント回答率報告、ポータルサイト掲示板で回答のあったコメントを公表 ※要望コメント有の科目に係る回答率：経法 60%、看護 57%</p>		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった	
	事業目標 1		○			
	事業目標 2				○	

	事業目標3		○	
評価理由	<p>事業目標1：SD研修1回、委員会企画のFD研修2回、共催FD3回、学部別をそれぞれ1回実施した。教員の研修会述べ参加率は産休者を除くと100%である。アンケート結果からはテーマの理解、大学教員の活動をより良くするのに参考になった等について概ね肯定的評価であった。</p> <p>事業目標2：学期途中のアンケートは、これまでポータルサイト掲示板のみで学生に周知していたが、今年度から Teams やポータルメールで呼びかけを行った。例年10件未満の意見であったが、20件以上の回答があった。学期末アンケートについては、今年度項目数を13から11に減らしたが、両学部とも前学期回答率が40%を割り、昨年前学期より少なかった。後学期も昨年より低く、50%の目標を達成することができなかった。</p> <p>事業目標3：学生からの要望記述のある科目に関しては、教員からのフィードバックが50%以上であり、目標を達成することができている。</p>			
(Action) 改善	<p>事業目標1：委員会として望まれる教員像や教育方針に則って、学生の主体的学習能力の形成、身に付く教育、活用できる知識の習得を目指し、アクティブ・ラーニング教授法を軸に研修会を実施してきた。個々で実施している教授法の紹介、学部を超えた教員間での活用・応用を考え、体系的に企画運営してきた。研修会は単発実施で終わるのではなく、数年継続し、研修の効果測定や確認をして研修内容が根付くよう、今後も取り組む。</p> <p>事業目標2：アンケート実施期間の延長、4回以上の教員への依頼、学生へのアンケート実施の周知等実施してきたが、授業アンケートに対する学生の回答率は下がる一方である。今年度は科目別回答率を教授会で公開した。学生座談会の意見では、科目に興味関心のないものには答えないとのことだった。最初に答えるか否かを問う設定にするなど、回答率向上に向けた対策を学生意見を参考にして今後も検討する。</p> <p>事業目標3：要望のある科目の教員コメント回答率は6割前後である。教授会等で教員のコメント回答率を見える化したことで、学生の意見に対してフィードバックするという教員の意識は高まってきたと感じる。学生座談会では教員コメントの存在を知らない学生も多くいたため、教員の取り組みを周知する方法も今後検討し、相互作用で授業を作っているという風土を形成していきたい。</p>			

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：教職課程指導委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目標	1 教職課程履修者が、教員となるための基礎的・基本的な内容が身につく指導 2 教職課程履修者が、教員採用試験を受験し、合格できるような試験対策の構築	
<b>事業 計画</b>	1-1 本学教職課程関係教職員の組織的活動を推進する。 -2 教育関係機関との連携を図る。 2-1 経営法学部教職課程科目に基づく適時適切な指導を行う。 -2 教員と学生の信頼関係の構築と個に応じた指導を行う。 -3 教育実習の円滑かつ継続的な指導となるよう、実習校との連携を図る。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 毎月1回(8月と3月除く)、教職課程指導委員会を開催した。 -2 県教育委員会主催の研究発表会へ参加した。 2-1 教職課程科目の指導を行った。 -2 単位修得状況を確認し、適宜個人面談を行った。 -3 学生並びに教職指導委員が、教育実習校との連絡を密に取った。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載 1-1 関係教職員の組織的活動(委員会資料・議事録) -2 教育関係機関との連携(県教委・地教委との連絡、研究発表会・研修会への参加) 2-1 学生便覧に基づく指導(⑥教職課程、別表2の確認、履修学生の成績確認・指導) -2 信頼関係・個に応じた指導状況(学修に対する要望の聞き取り、個人面談) -3 教育実習(実習校との打ち合わせ、実習報告書依頼、教育実習報告会の開催)	点検結果 1-1 滞りのない業務になるよう、教職課程指導委員会の内容等を毎月確認できた。 -2 青森県総合学校教育センターで開催された研究発表会に本学教職課程指導委員2名が参加した。 2-1 教職課程に必要な科目(教師論や教育方法論等)を指導し、履修学生の学習態度や履修状況等を確認できた。 -2 学習状況や成績が好ましくない学生に対しては、個人面談を行った。 -3 実習校との打ち合わせ、実習校からの実習報告書の返送や教育実習報告会の開催など、教育実習に関する業務が実施できた。

評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2			○	
評 価 理 由	事業目標 1： 学生便覧別表 2 に示された教職課程科目の指導を円滑に実施できた。 事業目標 2： 教職課程履修者が教員採用試験を受験するよう、本教職課程指導委員が働きかけてはいるものの、他の進路を選択する者や、公立学校一次試験で不合格になる者もいた。				
(Action) 改 善	事業目標 1： 教員に必要な基礎的・基本的内容が身につくよう教職課程科目の指導ができたので、今後もさらに学生本位となる指導に心がけたい。 事業目標 2： 今後も教員採用試験を受験するよう履修学生に働きかけるとともに、私立学校や他県の教員採用試験も視野に入れた対策を講じていく。				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：公務員試験対策委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目標	本学主催の公務員試験対策講座及びその他公務員試験対策に資する事業を効率的かつ効果的に実施することで公務員試験合格率の向上を目指す。 また、高校生向け公務員試験対策講座を実施することで地域社会の活性化に貢献する。 1 公務員講座受講生の合格率の向上 2 学内公務員講座の運営 3 学外高校生向け公務員試験対策講座の実施 4 購入図書の利用促進及びその他合格率向上に資する勉強会等の実施	
<b>事業 計画</b>	1 公務員講座等3年次受講生で公務員試験受験者の合格率3割を達成する。 2 スケジュール等に則り、公務員講座を適切に運営する。 3 学外高校生向け公務員試験対策講座を企画し、県内高校に実施要項を周知した後、当該講座を実施する。 4-1 受講生に対して購入図書の利用を促進していく。また、学内公務員試験対策勉強会などでも購入図書を活用していく。 -2 学内希望者向けの各種公務員試験対策の勉強会及び研究会等を実施する。	
<b>(Do)</b> 実施	1 公務員講座受講生23名のうち、行政職3名、公安職5名の計8名が最終合格し、講座受講生の最終合格率は約35%だった。 2 2023年公務員講座年間スケジュール等に基づき、学内公務員講座を実施した。 3 2023年度夏期休暇(7/29・7/30)および春期休暇(3/28・3/29)時に、学外高校生向け公務員試験対策講座を実施した。 4-1 講座受講生に購入図書の利用を図るとともに、公務員試験対策委員会所属教員による試験対策の勉強会等において、購入図書を活用した。 -2 学内希望者向けに、専門経済学対策講座を実施した。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1 公務員講座受講生の受験状況 (公務員講座受講生受験状況)	1 令和5年度公務員講座受講生受験状況
	2 公務員講座の運営状況 (公務員講座時間割、公務員講座受講者出席簿)	2 2023年度青森中央学院大学公務員講座時間割(前期)・(後期) 2023年度公務員講座受講者出席簿
	3 高校生向け公務員試験対策講座の運営状況 (高校生向け公務員試験対策講座実施要項及び受講者名簿)	3 高校生向け公務員試験対策講座実施要項及び受講者名簿
	4-1 購入図書の利用促進(図書利用状況表)	4-1 令和5年度図書利用状況表

	－ 2 各種勉強会及び研究会の実施状況(各種勉強会等実施要項及び受講者名簿)		－ 2 専門経済学対策講座実施状況および受講者名簿		
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4			○	
評 価 理 由	<p>事業目標 1：講座受講生の最終合格率について、目標の 30%を上回ることができた。</p> <p>事業目標 2：2023 年度公務員講座について、スケジュール案に沿って滞りなく実施することができた。</p> <p>事業目標 3：今年度より新たに開始した高校生向け公務員試験対策講座について、実施案に沿って滞りなく実施することができた。</p> <p>事業目標 4-1：購入図書の利用促進について、公務員試験対策委員会担当教員が実施する各種講義・勉強会等において購入図書を充分活用したものの、受講生自身が直接図書を利用する機会は必ずしも多くはなかった。</p> <p>事業目標 4-2：今年度より新たに開始した公務員試験対策委員会担当教員が実施する専門経済学対策講座について、実施案に沿って滞りなく実施することができた。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：最終合格率を高めるための施策を検討し、実行に移していくこととする。</p> <p>事業目標 2：公務員試験最終合格に資するような効果的なスケジュール案を検討し、実行に移していくこととする。</p> <p>事業目標 3：事業の浸透を図るべく、関係部署と連携をとりつつ、学外への周知を徹底し、受講者数の増加を目指すこととする。</p> <p>事業目標 4-1：次年度では、購入する図書のラインナップをさらなる見直しを図り、より公務員試験対策に資するような図書を重点的に購入し、配架方法を工夫した上で、公務員講座受講生に供することによって、受講者の図書利用を喚起していくことにする。</p> <p>事業目標 4-2：受講者の要望を精査し、公務員試験最終合格に資するような講座内容を検討し、実施していくこととする。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：カリキュラム検討委員会（経営法学部）

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	1. 社会情勢の変化に対応できる能力の育成を可能にする教育課程の編成を旨とするカリキュラムの見直しを進める。 2. 学修成果の可視化に資する取組を進める。 3. 学生のカリキュラムに対する理解を深め、さらには、大学としてのカリキュラムの点検評価の精度を高めることに資する取組を進める。				
<b>事業 計 画</b>	1-1 履修モデルの公務員型を公務員人材養成プログラム（仮称）へと拡充し、正課カリキュラム内外の枠組みを明確化する。 2-1 令和4年度に見直されたカリキュラム・マップを基に、ディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果の可視化につながる情報を整備する。 3-1 カリキュラムに対する理解や点検評価に資するカリキュラム・ツリー等のツールを整備する。				
<b>(Do)</b> 実 施	1-1 公務員人材養成プログラム案(及び日商簿記検定取得プログラム)をまとめ、教授会に提案し、2024年度からプログラムとして稼働。 2-1 2020年度入学生のGP及びカリキュラム・マップから、各DPの達成状況(学修成果)を可視化し、カリキュラムの改善可能性を探った。 3-1 経営法学部専門科目に関するカリキュラム・ツリーをまとめ、教学マネジメント委員会へ提案。				
<b>(Check)</b>  点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
1-1	当該プログラムの策定状況（委員会議事録、提案資料）		1-1 第1回から第6回委員会議事録、12月及び1月の教授会資料		
2-1	学修成果の可視化の進捗状況（委員会議事録、提案資料）		2-1 第12回教学マネジメント委員会提出資料、第6回委員会資料		
3-1	当該ツールの策定状況（委員会議事録、提案資料）		3-1 第2回から第6回委員会議事録		
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
	事業目標2		○		
	事業目標3		○		
<b>評 価 理 由</b>	事業目標1：当初計画にあった「公務員人材養成プログラム」に加え、「日商簿記検定取得プログラム」についても、2024年度から稼働するため。 事業目標2：2020年度入学生のGP及びカリキュラム・マップから、各DPの達成状況(学修成果)を可視化し、教学マネジメント委員会へ報告できたため。 事業目標3：経営法学部の専門科目についてカリキュラム・ツリーを策定し、教学マネジメント委員会へ提案し、教授会の承認が得られたため。				
<b>(Action)</b> 改 善	事業目標1：2023年度に提案した2プログラムの他、データ分析実践プログラムの稼働状況等をモニタリング、課題をヒアリングし、改善を図る。 事業目標2：カリキュラム・マップにおける各科目の学修目標の設定（◎や○の数など）の違いが学修成果の可視化に与える影響を分析する。 事業目標3：2023年度に定めた経営法学部カリキュラム・ツリーはやや複雑に見えるため、ガイダンス等での説明を重ね、学生の理解を深める。				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：グローバル人材養成プログラム推進委員会

(Plan) 事業 目標	1. グローバル人材を志向する学生の増加を目指す。				
	2. グローバルゼミに属する3年生の海外体験を促進する。				
事業 計画	3. プログラム科目担当者間のコミュニケーションを通じた現状把握に努める。				
	1-1 入学時のTOEICの点数の高い学生に対してグローバル人材養成プログラム参加を促し、グローバル志向の素質のある学生を増やす。				
	-2 グローバル特講や課外の取組においてzoom等を活用した外国人ビジネスマンとの遠隔接続により、異文化やグローバルビジネスに触れる機会を設定する。				
(Do) 実施	2 専門演習IIでグローバルゼミに属する学生の中期海外留学および海外インターンシップの実施に向けた支援を行う。				
	3 担当者会議を開催し、資格取得特待制度で入学する学生の修学状況など、現状を総合的に把握して、問題の改善に努める。				
	1-1 入学時のTOEICの点数の高い学生20名を選抜し、グローバル人材養成プログラムを実施した。				
(Check) 点検	-2 グローバル特講において、海外のビジネスマンや、海外実習中の本学の学生を頻繁に遠隔接続し、学生が語学を活用したコミュニケーションを行いながら交流を図った。				
	2-1 グローバルゼミの属する3年生4名の海外インターンシップ実施および実施に向けた支援を行った。				
	3-1 対面およびメール会議を通して担当者間の情報交換を行った。				
点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載		点検結果		
	1-1 参加者の入学時のTOEICの成績、参加者名簿（教授会資料、委員会報告）		1-1 参加者の入学時のTOEICの成績、参加者名簿		
	-2 グローバル特講の実施状況（教授会資料、委員会報告）		-2 グローバル特講シラバス		
	2 担当者会議の開催状況（教授会資料、委員会報告）		2-1 グローバル人材養成プログラム推進委員会議事録（第一回、第二回）		
評価	3 担当者会議の開催状況（教授会資料、委員会報告）		3-1 グローバル人材養成プログラム推進委員会議事録（第一回、第二回）		
	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標1	○			
事業目標2		○			

	事業目標 3		○		
評 価 理 由	<p>事業目標 1 : TOEIC の点数の高い新入学生 20 名を選抜した。グローバル特講では海外のグローバルビジネスマンと遠隔接続した交流を行った。</p> <p>事業目標 2 : ゼミ担当教員を中心に、海外インターンシップ実施に向けた支援、実習中の学生の指導を継続して行った。</p> <p>事業目標 3 : ゼミ担当教員を中心に、資格取得で入学した学生の英語力向上に努めた。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1 : 学生の意欲のバラツキを抑える指導。</p> <p>事業目標 2 : 海外インターンシップ実施におけるビザ取得などの支援体制の強化。</p> <p>事業目標 3 : 会議体での情報共有の活性化。</p>				

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：実習委員会

<p><b>(Plan)</b> 事業 目標</p>	<p>1. 実習全体の計画および調整 2. 学生の安全と健康管理の支援 3. 学生の実践能力向上に向けた支援 4. 教員の実習指導力向上に向けた支援</p>
<p>事業 計画</p>	<p>1-1 各学年の年間実習計画の立案 2 実習指導體制の調整 3 大学と実習施設との協議による実習の調整 4 看護学実習協議会の運営と臨地との連携強化</p> <p>2-1 学生の安全および健康管理の啓発と指導 2 実習における対象者に関する事故発生予防、ヒヤリハット等の分析・指導</p> <p>3-1 看護技術の実施状況による課題の抽出 2 「実習での学びの経験録」の活用による課題の抽出</p> <p>4-1 実習指導教員の研修会の企画・運営</p>
<p><b>(Do)</b> 実施</p>	<p>1-1 各領域及び関連委員会と連携をはかり、適切に学科全体の年間実習計画を立案した。 -2 各領域と連携をはかり、実習指導體制の調整を行った。 -3 Covid19 感染状況に応じて一部変更しながらも実習施設との連携、協議により実習を実施できた。また次年度の実習調整を適切に行った。 -4 看護学実習協議会を2024年2月22日対面開催にて実施した。出席者90名。3年ぶりの対面開催であったことから意見交換ができ有意義だったとの感想がきかれ好評であった。</p> <p>2-1 関係部署、施設と連携し学生の安全および健康管理の啓発と予防を行った。また感染等によるWillの申請があり適切に対応した。しかし体調不良のため欠席がちとなる学生が少数いる。 -2 臨地実習における事故の報告はなかった。ヒヤリハット等に関しては振り返りを行い適切に指導した。</p> <p>3-1 Covid19 感染状況に応じて一部変更しながらも前・後学期の実習を実施できた。看護技術経験の4年間のまとめでは診療の補助に関する項目の実施が低かったものの、卒業時到達度めやすが、「1：単独で実施できる」、「2：指導のもとで実施できる」のものは概ね7～8割達成されていた。 -2 学びの経験録では、12項目中2項目（根拠に基づいた判断、社会資源）は「とてもよくできた」が3割と低かったが、他は3年次と比較すると高かった。また自由記述からも優先順位やセルフマネジメントに関する学びの記述がみられ成長がうかがえた。</p>

	4-1 実習指導力向上を目指した研修会の企画・運営を行った。非常勤教員も参加し、3回（3/29：R5年度顔合わせ会、8/2、12/6）実施した。内容は、①昨年度まとめた「実習に関わる教員の研修会報告書」（2022年度）から「臨地実習における学生面談時の関わり方の自己評価項目」について、②合理的配慮が必要な学生への対応について、③事例検討であった。12月は講義等と重なり参加者が少なかったため日程の検討が必要である。				
<b>(Check)</b>  <b>点 検</b>	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載			点検結果	
	1-1 実習の年間実習計画の策定状況（委員会議事録、実習計画表、実習配置表、看護学実習要項、各領域の実習要項、別科助産専攻実習要項等） -2 実習指導体制の調整、運営状況（委員会議事録、教員の実習指導体制表） -3 大学と実習施設との円滑な実習の運営状況（委員会議事録、実習施設との実習調整記録、実習施設との臨地実習委託契約書、臨地実習協力依頼書、実習施設からの公文書等） -4 看護学実習協議会の企画、実施状況（委員会議事録、実習協議会実施要項、実習施設への公文書等、実習協議会資料一式、アンケート集計結果等）			1-1 第1回～9回実習委員会議事録、実習要項および2023年度の実習計画に関する資料一式 -2 第1回～9回実習委員会議事録、実習要項および2023年度の実習計画に関する資料一式 -3 第1回～9回実習委員会議事録、2023年度実習施設との調整記録等 -4 第6回～第9回実習委員会議事録、2023年度実習協議会に関する資料一式	
	2-1 学生の安全管理、健康管理の実施状況（委員会議事録、実習要項、事前調査、健康観察記録、各種ワクチン接種記録、Willの適応等） -2 実習における対象者への事故防止、ヒヤリハット等の分析・指導状況（委員会議事録、実習要項、事故等報告書、Will適応）			2-1 第1回～第9回実習委員会議事録、学生の健康観察記録の確認。3年次生の実習事前調査、Will申請書類等 -2 第2回～9回実習委員会議事録、ヒヤリハット等報告、Will申請書	
	3-1 看護技術の実施状況（委員会議事録、看護技術経験録の集計結果、電子書籍の更新、物品等の点検管理簿等） -2 「実習での学びの経験録」の活用状況（委員会議事録、「実習での学びの経験録」の記載状況、集計結果）			3-1 第6回、第9回実習委員会議事録および看護技術経験録の集計表、物品に関する管理簿等 -2 第6回、第10回実習委員会議事録および「実習での学びの経験録」の集計資料	
	4-1 実習指導教員（非常勤含）の研修会の企画、実施状況（委員会議事録、研修会実施要項、アンケート集計結果等）			4-1 第1回～5回、7回～9回実習委員会議事録および8月、12月の研修会出席状況、アンケート結果等資料	
<b>評 価</b>	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		

<p><b>評 価 理 由</b></p>	<p>事業目標 1：事業計画に基づいて実習全体の計画作成および指導体制の調整が適切に実施できた。</p> <p>事業目標 2：学生の健康管理、安全管理の指導はできたが、欠席がちとなる学生の健康面への指導が課題である。</p> <p>事業目標 3：看護技術の卒業時の到達めやすは概ね 7～8 割達成されたが、根拠に基づいた判断、社会資源の活用などの指導が課題となった。</p> <p>事業目標 4：事業計画に基づいて実施できたが、時期によって参加者が少ないこともあるため日程調整が必要である。</p>
<p><b>(Action) 改 善</b></p>	<p>事業目標 1：各領域、アドバイザー、関連委員会と連携し実習全体の計画および調整をしていく。</p> <p>事業目標 2：各領域、アドバイザー、関連委員会と連携し、学生の健康管理、安全管理について指導の充実を図る。</p> <p>事業目標 3：実習指導者と連携し、看護技術の経験および根拠に基づいた判断、社会資源の活用など実践能力の向上を図っていく。</p> <p>事業目標 4：教員の指導力向上に向けた研修会の企画・運営を検討する。</p>

令和5年度 事業活動PDCAサイクルシート

委員会等：国家試験対策委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目標	看護師・保健師国家試験合格率 100%をめざす。	
<b>事業 計画</b>	1-1 模擬試験の日程調整、会場確保、実施、自己採点結果の集計。 -2 国家試験対策講座の日程調整、講師との打ち合わせ、会場確保、運営。 -3 学生が実習中も国家試験勉強を継続するための支援。 -4 通算 GPA 下位 25%かつ模試得点下位 25%の学生に対する重点的な国家試験対策の実施。	
	2-1 1~3年生のアドバイザーに対して低学年用模擬試験の情報提供。 -2 卒業生（不合格者）に対する模擬試験に関する情報提供。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 学務課の協力のもと模擬試験を実施し、自己採点および業者からの結果を集計し、得点と偏差値の分布をグラフで把握した。 -2 学務課の協力のもと日程調整し、東京アカデミー担当者と対策講座の内容を検討して、8月に必修対策2回、秋季5回、直前2回の集中講座を実施した。その他、4月に国試ガイダンスと勉強法セミナー、6・10・12月に模試解説動画視聴会を実施した。 -3 必修過去問題（過去5年分）を印刷・配布したうえで、3月末~8月は1回/2週間、必修問題を25問ずつ10回配信した。50~25%程度の学生が取り組んだが、就職試験が近づくと取り組めない学生が多くなった。9月以降は1回/2週間、学生が使用している過去問に掲載されていない6年以上前の過去問を25問ずつ配信した。取り組む学生は10月末まで15名程度であったが、11月の看護研究発表会終了後は25名程度が取り組んだ。 -4 各模擬試験の全国偏差値に基づいて、特別対策の対象学生を選出し、学生の入れ替えを4回行った。特別対策として、学務課の協力のもと教室を確保して、過去問を印刷・配布し、学習会を実施した。9月末~11月は2日/週、12月以降は3日/週、1月以降は5日/週の学習会を開催した。特別対策の学生には、定期的に面談を実施して、学習状況の確認・助言をした他に、成績が下降した学生についても面談し、学習状況の確認・助言をした。保健師国試対策は、保健師教育課学生対象に保健師教育課程教員による15回の学習会を実施し、最後にまとめテストを実施した。	
	2-1 低学年用模試の情報を1~3年生のアドバイザー教員に情報提供し、実施した。 -2 前年度の国試対策委員の協力を得て、卒業生に模擬試験を郵送し実施した。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 模擬試験の実施状況と結果（委員会議事録）	1-1 委員会議事録（第3・4・6・7・8・10回）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 2 国家試験対策講座の運営状況（委員会議事録）</li> <li>— 3 国家試験勉強の実施状況。（模擬試験結果、委員会議事録）</li> <li>— 4 該当学生の成績推移（模擬試験結果、委員会議事録）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 2 委員会議事録（第2・4・9・10回）</li> <li>— 3 委員会議事録（第3・4・8・9・10回）</li> <li>— 4 特別対策の出席簿（Excelファイル）、模試結果一覧（Excelファイル）</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 アドバイザーへの情報提供の状況（委員会議事録）</li> <li>— 2 卒業生の模試実施状況と成績（模擬試験結果、委員会議事録）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 委員会議事録（第3回）・低学年用模試の請求書</li> <li>— 2 模試結果（Excelファイル）</li> </ul>			
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1		○		
	事業目標 2		○		
評 価 理 由	<p>事業目標 1：事業計画に基づいて実施できたが、実習および看護研究終了までの期間の学習、また、特別対策の学習会で使用する問題および出席率の低い学生への対応が今後の課題となった。</p> <p>事業目標 2：事業計画に基づいて実施できた。</p>				
(Action) 改 善	<p>事業目標 1：実習および看護研究終了までの期間の学習について、特に成績下位の学生への対応。</p> <p>特別対策の学習会で使用する問題と学生が購入している過去問の双方の活用。</p> <p>集中講座、模擬試験、特別対策学習会について早めの日程調整と時間割・教室の確保。</p>				

## 令和5年度 事業活動PDCA サイクルシート

委員会等：看護学部カリキュラム検討委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目 標	1. 令和4年度施行新カリキュラム運用の点検・評価等を行う。 2. 学修成果を可視化するためのディプロマ・サプリメントを策定する。 3. 内部質保証のための学生および教員によるカリキュラム評価を実施する。	
<b>事業 計 画</b>	1-1 新旧カリキュラム運用における点検・評価、課題抽出 -2 新カリキュラムツリーの作成 2-1 ディプロマ・サプリメントの策定 3-1 学生によるカリキュラム評価の実施（3年次、卒業時点） -2 教員によるカリキュラム評価項目の策定と実施	
<b>(Do)</b> 実 施	1-1 学期毎に看護学科の教員を対象に新カリキュラム運用上の課題に関する Web アンケートを実施（Microsoft Forms） -2 新カリキュラムツリーを作成、教学マネジメント委員会へ提出 2-1 教学マネジメント委員が担当し、当委員会で結果を共有 3-1 ・旧カリキュラムに関する学生評価（卒業時）は学務委員会が担当 ・カリキュラム改正（令和8年度～予定）に向けて、新カリキュラム（1・2年生）について学生を対象とした評価項目を Microsoft Forms で作成し、学年末に実施する。看護学教育モデルコアカリキュラムの内容を学修できたかどうかを評価するものとした。 -2 カリキュラム改正（令和8年度～予定）に向けて、現行カリキュラム2年間について教員を対象とした評価項目を Microsoft Forms で作成し、学年末に実施する。看護学教育モデルコアカリキュラムの内容を教授したかどうかを評価するものとした。	
<b>(Check)</b>  点 検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 新カリキュラムの実施状況（学科会議記録、令和5年度学事暦、時間割、再履修学生の状況）	1-1 ・前学期分については、前学期終了～9月末を期限として実施。学務上は支障なく運用できていること、開講時期に関して複数の意見があり、カリキュラム改正に向けて検討する。（学科会議報告資料12月13日、第9回学科会議議事要録） ・後学期分については、後学期終了～2/13を期限として実施予定、3月学科会議で報告予定。

						<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月6日に看護のカリキュラムの基本的なことに関するセミナーを実施予定。講師は一戸学部長。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>－2 カリキュラムツリーの作成状況（学科会議記録、作成した資料）</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>1－2</li> <li>・作成した新カリキュラムのカリキュラムツリーについて1月の領域代表者調整会議で報告のうえ、1月に教学マネジメント委員会に提出。</li> </ul>
	2－1 ディプロマ・サプリメントの策定状況（学科会議記録、作成した資料）					2－1 点検結果2-1は、「教学マネジメント委員が策定したディプロマ・サプリメントの項目を共有した。（学科会議議事録10月11日）」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3－1 学生によるカリキュラム評価の実施状況、分析結果（学科会議記録、委員会記録）</li> <li>－2 教員によるカリキュラム評価項目の策定状況、実施状況、分析結果（学科会議記録、委員会記録）</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>3－1</li> <li>・1月の看護学科会議にて実施予定を報告。（学科会議報告資料1月17日、第10回学科会議議事要録）1・2年生を対象に1月26日にMicrosoft Teamsにお願いとURLを配信した。2月13日期限。</li> <li>3－2</li> <li>・1月の看護学科会議にて実施予告。（学科会議報告資料1月17日、第10回学科会議議事要録）教員に対し1月26日にメールにお願いとURLを配信した。2月13日期限。</li> </ul>
評 価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった	
	事業目標1		○			
	事業目標2		－			
	事業目標3		○			
評 価 理 由	<p>事業目標1：計画通り実施し、次期カリキュラム改正に向けた課題を収集できた。カリキュラム改正に向けた検討事項が具体的になった。</p> <p>事業計画2：担当が教学マネジメント委員になったので、評価の対象とならなかった。</p> <p>事業計画3：学期末の実施のためこれから集計と分析が残されているが、評価項目を作成し、実施まで計画を達成した。</p>					
(Action) 改 善	<p>事業目標1：次年度のカリキュラム改正申請に向けて課題収集を継続しつつ、具体的な作業を進めていく。</p> <p>事業計画2：－</p> <p>事業計画3：現行の新カリキュラムが終了する（2024年度入学生が卒業）まで、適宜、項目の修正を検討しつつ継続実施し、看護学教育モデルコアカリキュラムの内容の充足を確認する。カリキュラム改正には今年度学期末の集計結果を活用する。</p>					

## 事業活動 PDCA サイクルシート

委員会等：高大連携委員会

<b>(Plan)</b> 事業 目標	1. 高大連携事業の継続と充実を図る。 2. 高大接続の推進（中期経営計画と関連）。 3. 大学の教育資源を高校側が有効に活用できるよう、施策を検討・実施する。 4. 高大連携活動を学生募集に活用するため、入試広報委員会と情報共有を行う（中期経営計画と関連）。	
<b>事業 計画</b>	1-1 高大連携協定校との連携事業について ・新たに加わった協定校を含めた6校との連携事業の継続と充実を図る。 -2 高大連携協定校以外との連携事業について ・新たな協定校開拓も含めて、各高校との連携に取り組んでいく。高校のニーズに応じた連携事業を実施する。	
	2-1 高大接続および入学者の質向上・入学後の学習意欲向上を目的とするプログラム（取得資格特待生制度・単位認定制度）の周知と検討。 -2 上記制度と特待生の学修状況等の周知を行うため、必要に応じて高校訪問を実施し、志願者の質の向上と数の増加を図る。	
	3-1 大学の教育資源が高校の学修内容に効果的に活用されるための施策実施と、高大接続の視点をもとにした、本学における学びの魅力発信を行う。 ・学部学科の学びの魅力を新たな視点で見直し、高校生及び高校教員に積極的・効果的に発信する。 ・上記の効果的な発信のためのツールについて検討する。	
	4-1 本学への進学に際してメリットとなる情報を高校に提供し、高大連携活動から得た入試広報活動に有益な情報について入試広報委員会と共有する（中期経営計画と関連）。	
<b>(Do)</b> 実施	1-1 協定校(7校)の探究の学習の支援活動などを行った。 -2 今年度は新たに2校(三沢商業高校、青森北高校)と協定を結んだ。	
	2-1 高校訪問や高大連携推進会議を通じて、高大接続の周知に努めた。 -2 資格取得による入試は簿記2名、英語1名の志願者を得た。	
	3-1 学院大・短大委員会にて、現在検討を進めている。	
	4-1 高校訪問と高大推進会議で得た情報を入試広報委員会と共有した。また、昨年度得た情報を今年度入試制度変更に活用した(経営法学部総合型選抜入試に「探求学習型」「資格取得型(簿記)」を設定。結果として総合型入試の志願者が定員近くまで増加した。	
<b>(Check)</b> 点検	計画段階の点検項目※括弧書きでエビデンス資料を記載	点検結果
	1-1 協定校および協定校以外との連携事業の実施状況。(高大連携推進会議議事録) -2 協定校以外との連携事業の実施状況。協定校以外に向けた高校	1-1 令和5年度 第1回 高大連携推進会議 議事要録(6/19,26 実施) -2 三沢商業高校との連携事業 7/14。青森南高校との連携事業 11/1。

	訪問、ニーズ調査の実施状況。	青森北高校との連携事業 11/13。 高校訪問記録 (4/26.4/27.5/29.4/1.6/2.6/9.8/3.8/8.8/24.8/29.9/27.12/24)			
	2-1 特待生制度・学習状況等の周知・単位認定制度の検討の状況。 (高大連携委員会議事録、高大推進会議議事録、高校訪問記録) - 2	2-1 12月・1月高大連携委員会議事録。  - 2 三沢商業高校訪問記録 4/27			
	3-1 高校生・高校教員向けの、本学の魅力に関する情報発信 (HP 記事・SNS 等)	3-1 11月・12月・1月高大連携委員会議事録。			
	4-1 高校との打ち合わせにおいて、進学傾向のヒアリングおよび卒業生の情報を共有および高校から得た情報を入試広報委員会との共有状況。(入試広報委員会議事要録・高校訪問記録)	4-1 10月に入試広報委員会議事要録 高校訪問記録 (7月、8月、9月、10月、11月、1月教授会)			
評価	事業目標	Level IV 目標以上の成果を達成した	Level III 目標を達成した	Level II 目標達成が充分ではなかった	Level I 目標を達成していなかった
	事業目標 1	○			
	事業目標 2		○		
	事業目標 3		○		
	事業目標 4		○		
評価理由	事業目標 1 : 協定校からの探究の学習の支援依頼に対応した。 事業目標 2 : 特待生出身高校との情報共有を行い、新たな特待生申請へとつなげた。 事業目標 3 : 教育資源活用促進特設 HP 新設に関して検討・提案を行っている。 事業目標 4 : 総合型入試の志願者を増やす情報を入試広報委員会と共有した。				
(Action) 改善	事業目標 1 : 協定校のさらなる要望に対応したい。 事業目標 2 : 今後も協定校(青森南高校ほか)の要望に応えたい。 事業目標 3 : 特設 HP 新設に関する理解・周知に努めたい。 事業目標 4 : 協定校など訪問した高校の入試情報を議事要録に示す。				